

新約聖書使徒行傳

全

02-SHI

海老澤文庫

耶穌降生千八百七十七年 翻譯委員社中

新約聖書使徒行傳

明治十年 日本橫濱上梓

海老澤有道文庫



使徒行傳

第一章

テヲピロよまれきやに前書をつらりておぼよそ
 耶穌のそドめておこあつるところの教—ところとある—
 ニそのえらびたる使徒—もよ聖靈によりて命ぜ—のち舉
 られ—ときままでのいられり^三 それ耶穌ハ—みと受け
 —のちおろくの確據ある者—をもておのれの活するこ
 とをおろせ—四十日^四のあひだ—のきうよこえ神の國のこと
 につきてかたり^四 ち—かきうともよあつまりおて命ト
 けるハなんぢらエルサレムをせられし—てまればきけるこ
 ころの父の約束—たまひ—ころをまらぶ—^五 そのヨハネ

新約全書

使徒行傳第一章

自一至十節

そ水とよてバプテスマとあしられどもあんぢらハひさしー
らばして聖靈によりバプテスマとうくづけきばあり六あ
まねるもの彼よとひけるハ主よあんぢいま國とイスラエル
にかくさんとまざるハ七うきらよひけるハ父のその權に
てさぞめたまくる時まゝ期ハあんぢらが来るべきところ
にあはばハされども聖靈あんぢらに臨てのちなんぢら
能力をうけエルサレムユダヤ全國サマリヤおよび地のやそ
にまをそが證人とあるべし九このことを言をうりーのち
うねくのみるのうちにあげらる雲これとうけて見さしー
めしり十耶穌れのほきるときかれう天をあさぎ注目しり

一にあらき衣をまきくるあしりの人ありてうきらよとち
土のひけるハガリラヤ人よあよゆ名よ天をあさぎたて
るやあんぢらをゆるされて天よあげらしーこの耶穌ハあん
ぢらうきの天よのほるをまきくるそのことくまゝしきし
ん〇士そのときうきう橄欖とあつくる山よりエルサレムに
うくるこの山ハエルサレムよちうくおねよを安息日よゆき
うる程あり士まをよのりて樓にのちまきりあはよとくまき
るものハペテロヤコブヨハネアンテレーピリポトーマ
バルトロマイマタイアルパイの子ヤコブゼロテといけるシモン
ヤコブの兄弟あるユダあり士すづてこのひらくハ婦らち

および耶穌いしすのまゝマリアマリヤと耶穌いしすの兄弟きょうだいとともにこゝろ
をおもせつねは祈禱いのちをつとめたり○五そのころペテロ
門徒かどたちそのあつまをおつまをおるものの凡おほそ百二十人ありの中なかはた
ちをいひけるハ六人々ひとびときやうたいよ聖靈せいりようダビデの口くちよ
て耶穌いしすをどらあるものとみちびけるユダユダよつきて預め
かたりたるこの聖書せいしょいかに應こたまべくりなり七その
うきもさきうとともたつちありてこの職つとめをうけられが
て八このひうの不義ふぎのあらひをて地所ちしよをうひます九その
さまよおちて真中まなかよりやふれその腸はらごとく十あくれいで
たり九このことエルサレムエルサレムよ住すむすべのものはあれ一〇

ハそのちしよを方言かたごにてアケルダマとよぶこれと受けバ血
の地所ちしよあり一詩の篇うたよある二うきの家いへをむかへ三あれ
そのうちに人ひとをままするあくれ四うき五の職つとめいひよえさ
せよとつり三このゆゑは主まい正ただそのまを六中なかよゆき
きいたまひする間ま三七まゐるちヨハネのバプテスマよりんト
めそれをもあれてあげらる八日ひよつくるまを常つねよそれ
らととも九にあり一〇あつち一人ひとりそれらととも一一にその復たがひ
生なまし一二この證人あかしとある一三きなり一四こ一五におつてハルサバ
とあるあるヨセフヨセフこの名なハユストとつくるものとマツテア
とのあつちとあげて一六いのりツひけるハ一七まぐての人のこ

ころとありたまふ主よ。ねがはくは奉事として使徒のつと
めをえさせんがため。この二人のうち一人を選び
—のちめ—たたく。五 ときでユダもこの職をもあれてその
ゆゑづきところよゆきなり。六 かくて闘をくり—マツテア
はあくりけきばうき。十一人の使徒うちともみつゝあれ
ま。
第二章 ベンテコステの日にいつりて門徒うち皆ころとあ
もせそ一處にあり—にニよもつに天よりたげしき風のと
くき響ありてかきうが坐さるところの室はみたり。三 煙の
ごときものあつたれその進てくきうかのくくにとく

ちる。四 ころにいつてくきうのみる聖靈よみこされ。そのせ
いさいのいち—あるにあそけひて異なるくみくの方言を
いひもよめたり。五 ときよ敬虔あるユダヤびと天下のくれ
らよよりきこりてエルサレムよころまねるものありき。六 こ
の音おろり—によりおろくの人々あつたりける。七 かのく
己ころよころとをとりきうのかさきときて蹠あつりて
みおろきあやみつ。互よひひけるハ。視よこのかこ
るものいまてガリラヤ人あつばやハ。いらよしてまきら
かのく生れ—ところの方言をくきうよりきこり。九 ころ
ハバルテア人メテアびとエラム人おもびメソポタミアユダヤ

カバドキア ポント アジア ナフルギア バムリア エチプト
クレネにちうきリブエの地あはにすめるもの。またロマよ
うきつりてさるもの。あるひハユダヤ人およびその教よ
う人土 ますクレテびとアラビヤ人あるまかきうが我らの
らにらうバをよて神のおほいあるみうをとかけるときく
うと 皆おとあきりぶくまてたがひよいひけるハこハ
のふるゆゑぞや ありひハあさけりて此ひとくハ甘き葡
萄酒よみこされさるものありとりあものあり 昔こよハ
ソクペテロ 十一人とともにたち聲とあげてうきうよむら
ひりひけるハユダヤ人およびまぐてエルサレムよすめるも

のよあんちうよくこの言ときてこを志す 今ハ晝の
九時あまふ。あんちうのおひこくこの人々も酔るもの
よあはれられさるち預言者ヨエルによりてかこれる
ところあり 神のひこまなく末の世にゆりてわきまか
靈をよてすての人よそがハ。あんちうの子女も預言を
べ。またあんちうのそのきものハ異象をよかひさるも
のハ夢をみるべ。大その時われまが靈をよて志もくある
男女よそがハ。うきう見まて預言をく。されうへある
天よ奇跡をあうま。志とある地ハ休徴をあうこ人。さか
ち血あり火あり烟あるべ。主のおあひある 顕赫日の

きこらん さきこ日ハうらく月ハ血コかもらん ニまきて主
の名をよびこのむゆのもまゝくまゝくーニ イスラエルのいと
びとよ。うれうのこゝをときけ、それナザレの耶穌もあんち
らの知ごとく神うまこよりてあんちうのうちにふせー妙
ある能力と奇跡とあるーをよてあんちうよ證あまゝ
るところろの人あり 三この人ハまゝもち神のささうめー旨と
あるかすめ知さまよとろろよかあひてささる。あんちう
ハ無法の手をよてられをささる。十字架よつけてらるせり
西神ハその死のうろーみと釋てられとよみづらうせたま
へり。さきハ死よつかくまゝとるべきまゝのあうささるハなり 三

そのダビテうれよつりていひけるハ我もがまゝよ主のつね
よ在とみる。そのまろ右よいすまハわが動されざるためあ
ま 三このゆゑよまろ心ハこのしみ。まろ舌ハよろこづり。こ
つまろ肉體ハ望よとらん 三これあんちハその魂と陰府よ
まておうだ。まてあんちの聖者とらちもてあめさる。ゆゑ
なり 三あんちまてよまねよ生命の路とあめま。これをあん
ちの前よおきてよろこびよみさーめんと 三元人ハまろやうだ
いよ。まろ始祖ダビテよつりてまろくろとらあくあんち
らよかてまろ當然とあり。くまハまて死てまろむ
れその墓ハ今日よいつるまてそれらの中よあり 三

預言者にして神にわれさちうひをささぐ。その血統のうちよ
そいとりをあげて位につらうめんとちうひたまへると知
三あうとめこのころをささぐるゆゑよキリストのよみら
つるころにつきかたりて。うれの陰府よすそおくれせう
その肉體もらちもそはとつるあり。三よそよ神の耶穌を
よみぐらうせたまう。それらハみみその證人あり。三この
ゆゑさうきんをそに神の右にあげられ約束のせいをい
父よりうけて。今あんぢうがととる聞ととるのめを
そけり。三四五それダビデも天よのわがことか。三六
みぐらうのいけるハ。主よが主よむうひてつらう。それる人

ちの敵をあんぢの足登とあそまぐて。右よ坐せと。三七
バをてイスラエルの全家よあんぢうが十字架よつけ。こ
の耶穌をささぐ神に主とありキリストとあり。たがひ
一ころを確よ志れ。三九うれうれをささぐてそのころ刺さ
かころ。三九にわいさベテロとわうの使徒さちよとひけ
るハ。ひとく兄弟よそれららるよをなまきり。三九ベテロ
らにわいけるハ。あんぢうかのく悔あつためて罪のゆる
をえんがさめよ耶穌キリストの名よよりてバプテスマをうけ
よ。志うらバあんぢうも聖靈の賜をうくべ。三九この約束ハ
あんぢうおよびあんぢうの子孫まをささぐての遠人をあん

ち主たるは是の神にめぐるはひとりごとくに屬あり 聖なるは
なくのことをもとめて證してきりめけるはあんならうこのよ
くまなる世よりまきひらきまきよ ^四 そのときこの言を
きくは是のハバテスマをうけり。この日でもよんを
まけるものおほよそ ^三 三千人 ^三 うまきハフねは使徒の
と一をうけ交接をあーパンをさくくく 祈禱とをつと
む ^三 うににおいて敬畏ひとくろるよ生をまき使徒たち
よよりておろのふしきあるまきと休徴おこるまき
^四 信者ハまきひとりごとくにあらまりて諸物をとも
^五 産業とそのものものと驚ておのくの用よまきくこれ

をまきあきぬ ^四 日々くろるをあまきせ聖殿にうりまき
家においてパンをさきよあまきとまきくろるをまき食とも
に ^四 神をあらすべての民にあらまき主まきくろるま
のを日々けりくろるまきくたまきり

第三章 第三時のその時刻はあきりてペテロとヨハネと

もと聖殿のありに ^二 一人のうまれつきある跛ありみ
やにひらひとし施濟とこもんうめし日ごとおまきて殿の
美とあらう門におくる ^三 うまきペテロとヨハネのまき
いらんとまきを見てほんど ^四 を求る ^四 ペテロヨハネと
もよつてくまきまきてひらきまきれらとみよ ^五 うまき得

こゝとあらんとおまひてうれれを見つり六ペテロいひ
くさるハ金銀ハこゝまふふこゝまきよあるものとあへぢよ
あさふナザレの耶穌キリストの名よより起てあめめ七つ
ひよその右の手をとりにこれとおこしけまば。その足と蹠た
ごらよつよりありてハとどりさち且あめめ。踊あめと神
をあめつ。うまうとこもにみやよのりぬ九すくての民
建のあめと神をあめるとみて十素そのみやの美門よさ
あまこしとくひさりしものあるとあり。この人よありしこ
とどおひいよおどろきあやしり。土そのおしるくペテロ
とヨハネよまがりとりしあひよよ。民もあめとろくことを

なりざし。くソロモンの廊と名づらるところよかけあつまれ
そ。土ペテロられとみて民よこくけけるハイスラエルの人
よあにゆきよこのことを奇とまらやまねるがみづくらの
能と徳をもてこの人とあめませ。ゲとく。あんどまねら
よ目をつくらや。土それアブラハムイサクヤコブの神まがせ
んどさちの神こそ志ま。耶穌まかちあんどら。かろこ
せしものピラトがゆるまこくとまごめたちとき。その前よ
なんぢらぶ拒しとさちのものを榮ま。くり。土あんどらハ
聖者よ。しきものところを人よころせしものをかめれよ
あさつらまらんこゝとまら。十五うら生命の主ところせり。神

いふれを死よりよみづつせ。まねくはそのあけびとま
るなり。六 耶穌の名ハその名を信するよりてあんなら
見るところを識とるものこの人をつよくせり。かく耶穌よ
れる信仰あるんぢうすべてのもの、前よかりてこの人を
まらなく愈しよりまきやうづいよまねの知るんぢうかお
こあひしころあつぎるによりてなり。あんなら有司た
ちもまさ志くり。七 あれども神ハまげてのよげんーやの
口よよりてキリストの苦をうくることをあつくとめ示し
そのこととかく應せしめり。九 このゆゑよるんぢう罪を
らふころをあつめてその罪をけしめしことをせよ。そ

ハ主のまより安舒日のまより。十 且あつかつとめしめた
まひし耶穌キリストをおろしんがらあり。三 神のいし
つよりまよき預言者のらちよよりていひしまひし萬物の
あつたまふるときまを天ハくろくむりまをうけおくべし
三 モーセヨウラの列祖たちよつげていひける主あま
んぢうの神ハるんぢうの兄弟のうちよりまれし似らひ
とりの預言者をおこさん。そのあんならよつづすべての
ことをまきし。三 すべて此よげんーやにまきしあつがら
るものハ民の中よりとりあつはる。三 かつサハエルよりこ
のうしかりしころの預言者もみかあつかつこの日

とさしていつり 三 それあんぢうのよげんーやの子孫あり。
うら神のまじらふ列祖よさやたまひー契約とうけつぐも
のありまゝあまらアブラハムよつげて地の諸族ハるんぢの裔
よよりてさいちひをえんとひたまつり 六 神をてよその
まもて耶穌とたてあんぢうおのくをその惡よりひきかく
一 福とえせあんぢうがめよ先るんぢうようまをつくつせ
て
第四章 三 うまらぐ民ををしへ。うら耶穌のこころをひき死よ
そよみづらうこころを宜ふによう。祭司みやもりづらうおよ
ひサドカイのひこころを心とあやまーその民よかくれるとき

突然きこりて 三 手づくらこれをとらふ。時をてよられけむ
をあらう日まを獄にひきおけり 四 されどその道ときー
ものいあやくこれと信む。その數あふよを五千人あり 五 明
日つらさぐら長老かくーや 六 および祭司のときアアンナま
とカヤパヨハネアレキサンデルとさのーのときをさのまぶての族
エルサレムよあつまり 七 使徒うちとその中よつてせてらひ
けるへかんぢうあまの權まさるよの名によりてこれをおこ
あひーやハそのときペテロ聖靈よみさされくきうよひ
けらハ民のつらさおよびイスラエルの長老よ 九 それらもー
病する人よおこあひー善事よつきらまをいうにーて愈せ

しと今日たゞさきある^十あんぢうとイスラエルの民もさる
あるじし。そのあんぢうが十字架につけしところ神のよみ
グーらせしきひしところのナザレの耶穌キリストの名によ
りてこの人すこやりあるところを得。あんぢうの前よりち
りと^{十二}これまゐらちあんぢう工匠のまてしところの石の
一の隅の首石とあれるものありしこのあり別はまぐひあ
ることあり。その天下の人のうちよそれらの頼のよきてま
くさるべき他の名とたまはさるべきなりし^{十三}くまうペテロと
ヨハネのいもをいふかるところあきをきて。その無學のいや
きものあるとあるはこれとあやし^{十四}りまうその耶穌と

どもにありしとある^{十五}うらひやされたる人のくまうとと
もに立るをさるよりのひけまき言あうりき^{十五}くきて
くまうに命とて集議所とさうし^{十六}後あひをうりてひけ
る^{十六}この二人よあにとあまきまや。くまうがまてよのちとるき
休徴とおこあつることあまきてエルサレムよさるもの。明
くよしるところあり。それらそれとひひけまことあさるに
ま^{十七}あうれどもこのことあほひろく民よつさるさるた
めよりまうを恐喝このあその名よついで人よかするこ
とあうらあめん^{十八}つひよりまうをよびてさうに耶穌の名
についてかする^{十九}こと教る^{二十}こととあまうれといまむ

ペテロヨハネウキテここに居ていひけるは神はまことの
もまことであんぢはまことなる神のまことありて義たらん
あ。あんぢはみづからこれを判よ 三 見よとて聞
るところのものいぢぎをえざるなり 二人々そのあり
らるによりて神をおぐめられんれは民をおそきこのふ
たりを罪するにすあくさるよこれをおびやくそゆるせり 三
そのふしぎあるまことよりていやされたる人の四十歳あ
まりありき 〇 三 くるゆるされそその友のまことにゆき祭
司のまこと長老のいひしことをこころづくつと 四 その友こ
れをきいてらるをおそせ神はむらひ聲をおげていひけ

るは主よあんぢは天と地と海とそのありのありゆるもの
をつくりたまひし神あり 五 あんぢ曾てそのしもダビデ
のうちにありて。あまゆゑは異邦人のまことなるの民
はむるしきことを謀り 六 地の王うちにおこりて羣伯と
もにあつたり主あまゆびそのキリストにさうらふといひ 七
それまことよへロテとポンテヲピラト 異邦人あまゆイスラエル
の民あまゆにこの城にあつたり。あんぢが膏をそきた
る聖僕いぢをよさうらつり 八 こゝにあんぢの手あんぢの旨
よてあまかどめさうらたまひしことをかきつらるる
り 主よいまかきつらの恐喝をみたまはく。ねがもくはあんぢ

の手とのぐて醫とほごこーあんぢのきうたをよぐ 耶穌の
名よよりてあるーとふーぎあるをよをこるをーやあん
ぢの僕どもに臆まるうとふくあんぢの道とのあることとを
えささせよ○ 三 けりて祈禱をくーときそのあらまれると
ころ震ひうごきみる聖靈よみこされておくまるところなく
神のこころををのぶ 三 信者いみるころをーよーおまひを
一よーて誰ひとりそのゆちものと己ぶものころをーよーおまひを
くまぐてこれをらもよゆてり 三 使徒うちおるある能を
ゆて主いゆまのよみぐりーころを證しけりみあある
いるる恩とけりむり 三 其のうちよひりも窮乏のふ

けりきそハ地所あまひの家をゆてるものハそれとけりて
そのけりーところの價をゆちきけり 三 五 使徒うちの足もと
におくこれをおのくの用よあそぐひてけりあそくーがゆ
ああり 三 六 レビの族よてケプロよけられーヨセフハ使徒と
ちよよをれてバルナバといもるこれとけりバ勸慰の子 三 七
のひと田疇ありけるがそれを售てその金をゆちきけり使
徒うちの足下よおけり

第五章

三 八 志けるよアナニアとりよ人その妻サツピラとともに産

業とけり 二 其のあそひの幾分をかくー餘のけりふんをも
ちきけりて使徒うちのあーゆちよおきぬその妻もこれを

志きり^三 ペテロ^ハのいけるハ アナニア^ハよふにゆゑよあんぢ
のこゝろサタナ^ハよみこされ^{聖霊}よむくひつらりて^{地所}
のあはひのいくぶんどくまうをせ^一や^四 地所^ハいまご
くさるるときをあんぢのものなうぢや。まをに售^りりとも
まごあんぢの權^ハつけるあうぢや。ふにゆゑよあんぢの心
このこゝろをくまごて^一や。あんぢ人^ハよむくひて偽^ハあは
神^ハよむくひてつらまらるあり^五 アナニア^ハこの言^ハをきくた
ふきて氣^ハくも。これとさくものみる大^ハおそる^六 マ^ハあきも
のともたちてうきを殮^クきつて^葬せり。おほよそ三
時^ハをりまぎその妻^ハいまごこのあり^一こゝろを志^スべ^一て

つりきこせり^ハ ペテロ^ハのいけるハ あんぢ^ハこのあ
はひ^ハ地所^ハと^一や^二ねよつげよ。こゝろを^三つひけるハ
志^リりその價^ハあり^九 ペテロ^ハのいけるハ あんぢ^ハて
ころを^一あをせて^主の靈^ハと^二ころむるハ あんぢ^ハや^三視^スるん
ぢの夫^ハと^一もうむり^一の^二あ^一門外^ハあり。まごあんぢ
を^一かきつて^婦直^スよその足下^ハに^二た^一きて^三いき絶^スる
まごのともつりきりてその死^ハするを見^ラれ^二も^一かき
つてその夫^ハの^一か^二ころに^三もうむせり^一 ^十 全會^ハのもの^ハとこ
れ^ハを^一きけるもの^ハも^二み^一お^二お^一い^ハ懼^ス ^{十一} お^二お^一の^二休^一徴^ハとふ
し^一き^二ある^一まご^ハ使徒^ハの^二手^一よ^三よりて^四民^ハの^二うち^一におこ^ハ

それより。まゝうれくみか心をあまらせてソロモンの廊にぞる
主餘のもののいあつてこれよりちつづうざりき。去うれとも民
はうきうとふとみ 而男女とも信むるものましくおろく
主よつきぬ 十五 うてひとく病るものをとらさうて衢のい
でねごとと榻のうへにかけり。そのペテロのきこらんとき
その影に蔭をうくものあらんうとおもくはあり 十六 まごか
るくのひとく四方のむくよりやめるものおよび惡鬼は
あやまさきたるものをとらさうてエルサレムよきこりこと
うとくいやされより 十七 去うるよさいトの長あすひうきこと
もたあるもの即ちサドカイ 宗のともがらみか起ておろい

よいきどあり 使徒たちをとらうて公獄におけり 十九 され
ども主のつひ夜ひとやの門をひくきうきくをうけさく
いづてつひけるい 二十 ゆきて聖殿にうちこの生命の道を
ころぐく民よかれ 二十一 去るころきとき味爽がよりみ
やよりてとふ祭司のときあすびともにあるものとも
きこりて議官およびイスラエルの子孫れとよりちをこ
とごとくよびあつめてうきくをひき來らせんがうめに下
吏をひくやよつちをせり 二十三 その人うちきこりて獄のう
ちよこのまうとまご。かつりて告のひけるい 二十四 やハか
くどち守るものも門のそとにうけるをうきくハ見ハたひ

らけハ内ニひとりをもみざりき 祭司みやもりおよびさ
いの長うちこのことをもきててこのいふはありゆくと
きうとうきうはつきてこころまどくり 五 あまひときり
うきうにつげさる視よるんぢうヶ獄はあきしものはい
ま殿うちて民をさしふ 六 こころおいて殿司もあさやく
うちともによきうきうをひきてこれり。されど手あさき
こころをせざりきその石よて民にうさめんこころをおそれ
がゆゑあり 七 まてよひきてくりてりきうを議官のまう
うせ祭司の長これよとあてひひけるハ 八 まきうこの名
よりてとあるるうれとるんぢうはきうびく禁せしに

あさやくあするにあんぢうハそのせうハ城エルサレムよみと
せ。まこの人の血をまねるにかさしめんとき 九 ペテロと
使徒うちうていひけるハ人よあさうみより神よあさ
があはるまききのことあり 十 まきうの列祖の神ハるんぢ
らが木よりけてらあせしとらるの耶穌をよみうつせと
まうり 三 神ハこれを君とし救主としてその右のうに
ぐこれイスラエルよんあさうめと罪のゆるしをあさへん
がうめあり 三 三 まきうハこのことの證をまきものあり神お
のきよ信従ものになまよとらるの聖靈もまきあうしを 三
のひらぐこ道とまきてるるまきうくいうりをあくみり

まゝを殺さんとせらるる 言ハリサイの人よりて衆民のうちよ
たふとまゝに 教法師がマリエルといつるものあきやくの
ありよとち命して使徒とちとあをく外よいごさうめ 三
いひけるハイスラエルの人々よ。あんちうこの人々ちよつき
てるさんとまゝにことをみづくつてあむべし 三
にチウダおらりてみづくつて 矜調まりこれよあさかひも
のおあよそ 四百人ありしづくれハこあされあさかひも
のハ皆ちうされてあとあきよいさる 三
この人ハのちまゝに
戸籍ちうぐのときカリヤのユダおらりて民といさるあひ志
たガハせীগ。くれも亡びそれよあさかひもものもことづく

ちうされしづあり 三
今まれあんちうよかこらんこの人々
せゆるしてこれよか、あをるくれ。その謀とこあおこ
るよとこあ人よりいでをうあはれあさかひも 三
神よ
いひてあんちう神よさうらふものとあらん 三
うまうこれよ
あさかひ使徒とちとよびてあちうち耶穌の名よよりてか
こることをあをくれと命してこれとあせり 三
使徒と
ちハ耶穌の名のこあよまづめをうらるし足ものとせ
られしことをよらうびて議官のまゝとさうり 三
日々よ殿か
よび人の家よおいてとくんを。耶穌キリストの福音を

つゝつてやめざりき

第六章

そのころ門徒たちの數おほくともキリシヤこ
とものユダヤ人その癡たちが日々ほとこしよおとこ
れしめてへブルことものユダヤ人はむくひ怨言ことあり
けきん 十二人のもので―たちをよびあつめてひひける
はわきう神の道をしめて飲食のことよつくるはこころ
にうかちむき このゆゑ兄弟よるんぢうのうちより聖靈
と智慧のみちとも善證あるもの七人をえらふべし―わきう
そをたてしこのことをつつさとしせん 志し―てわき
らふつねよいのこころ道をつつよるこころを務づし五こ

の言さぐてのもの、こころあまうるひけきん信仰とせいぎ

いのみちともステパノおよびピリツポフコロニカノルテモン

バルメナまゝユダヤ教はツツア―アンテオケのニコラをえらび

六 このひらぐを使徒たちのまゝはたしむ使徒たちのいの

きてそのうくよ手をおけり○セ神のみちつよくひらまり

て門徒たちのうもエルサレムにもるはごくまさり祭司も

おほく信仰のともはあさぐり○ハステパノめくみと

能力ともちてふしきあるわざとおほひある休徴を民のう

ちにおこるへき九 ときよりリベルテンとともるふる會堂およ

びクレネびとアレキサンテリア人キリキヤびとアジアびと

新約全書 使徒行傳第六章 自六至十四節 十九

の諸會堂よりひらぐ起てステパノといひあそそか^{十二}の地を
ステパノの智慧とて建によりてつひこの地の靈よてきを
ることあつてもぞ^{十一}つひよ人をしつりつちりいしめける
いわきうれかこもをきくよモーセと神をけりた
そ^{十二}この地を民と長老の心とをうとりさせ突然
きりりてこの地をこらく集議所はひきたり^{十三}つちりの
證人をたすいしせけるハこの人ハきりたところと律法
をけりてこもをこりりてやめぞ^{十四}そはうれうりてこの
ナザレの耶穌ハこの所をこほちうつモーセのわきよよさ
つけりてこの地の例とつちりてつちりてわきよきりたき

をあり^{十五}こよおいてあそぎよよ坐せるものみる目と
注てこの地をみよよそのうほ天使の面のこりてありき、

第七章

さて祭司のこもつひけるハこの事々のこりてな

るやニステパノつひけるハひとり兄弟および父たちよ聽

つちりてのぜんぞアブラハムつちりてカラニよままぶるよこも

メソボタミヤよありよとき^{十六}榮光の神あつちりて^三こりてよい

ひたまひけるハるんちの國をいせるるんちの親族をよるま

てわがるんちよ示さんよこの地の地よいよこも^{十七}うりてアブラハム

カルダヤびとの地をいせ、カラニよまあり。その父のあよ

のち神のこもよかこよ今るんちが住よこの地のこ

地よりつゝたまはり^五この地はわけては足をふきたつるは
この地をもあつてむ。うらかきいいます子あつたりしたこ
の地を産業としてつねとその子孫はあつて人と約束した
まはり^六神うけいひたまはり。うきの齋はほろの國はやど
らん他のくらにの人々を奴隷とあつて四百年のあひだあ
やまさん^七神まさいもく。うきをともきいとまする國民をわ
せさるくべし。そのちこのきうそのくらにを出このころあは
おいてわきよつとんとハまさいもくは割禮のけいやくを
あつたまはり。うけてアブラハムイサクをうけ^八第八日よこの
つきいをこきよおころあふ。イサクヤコブを生ヤコブ十二の始

祖^九とむ^九始祖たちヨセフをねとこきをエジプトよ賣
ま。されど神ハうきとまにありて^十まづての患難のうち
よりこきをまきひびうエジプト王パロのまはよおいて恩
寵とちえとをあつてエジプトあまびパロの全家をつつと
とせたまふ^{十一}うよエジプトカナンのまづての地は饑饉
とかほある難ありわもろのせんぞうちも食物をうるこ
とをえざりき^{十二}まうるよヤコブエジプトは穀物あるこきを
まして先^{十三}わきうのせんぞうちをつつとま^{十三}あつてびつら
うせうきヨセフその兄弟はま^{十四}うき。うらヨセフの親族
パロよあまうらうよあるま^{十四}ヨセフ人をつつとてその父

およびまゝでての家族七十五人^{十五}をよびまゝに^{十五}おいてヤコブエジプトよろぐれ^{十五}。この^{十五}も^{十五}の^{十五}祖宗^{十五}も志^{十五}に^{十五}する^{十五}の^{十五}ち^{十五} ^{十六}スケムよ^{十六}から^{十六}る^{十六}ま^{十六}アブラハムが^{十六}金^{十六}を^{十六}も^{十六}て^{十六}スケム^{十六}の^{十六}父^{十六}なる^{十六}エンモル^{十六}の^{十六}子孫^{十六}より^{十六}う^{十六}ひ^{十六}か^{十六}き^{十六}墓^{十六}よ^{十六}を^{十六}う^{十六}む^{十六}む^{十六}さ^{十六}り^{十六} ^{十七}神^{十七}の^{十七}アブラハムよ^{十七}あ^{十七}め^{十七}し^{十七}た^{十七}ま^{十七}くる^{十七}や^{十七}く^{十七}そ^{十七}の^{十七}期^{十七}ち^{十七}う^{十七}ぶ^{十七}く^{十七}よ^{十七}あ^{十七}さ^{十七}ぐ^{十七}ひ^{十七}て^{十七}民^{十七}ふ^{十七}え^{十七}ひ^{十七}ろ^{十七}ぐ^{十七}り^{十七}て^{十七}エジプトよ^{十七}お^{十七}ほ^{十七}く^{十七}あ^{十七}ま^{十七}り^{十七} ^{十八}六^{十八}ヨセフの^{十八}う^{十八}ら^{十八}を^{十八}あ^{十八}ら^{十八}ぶ^{十八}る^{十八}ほ^{十八}ろ^{十八}の^{十八}王^{十八}お^{十八}こ^{十八}る^{十八}よ^{十八}い^{十八}り^{十八}て^{十八} ^{十九}う^{十九}れ^{十九}あ^{十九}し^{十九}き^{十九}謀^{十九}と^{十九}も^{十九}て^{十九}わ^{十九}き^{十九}の^{十九}親^{十九}族^{十九}を^{十九}あ^{十九}ら^{十九}ひ^{十九}わ^{十九}き^{十九}の^{十九}せ^{十九}ん^{十九}ぞ^{十九}た^{十九}ち^{十九}と^{十九}る^{十九}や^{十九}ま^{十九}し^{十九}その^{十九}嬰^{十九}孫^{十九}の^{十九}い^{十九}き^{十九}の^{十九}こ^{十九}う^{十九}さ^{十九}る^{十九}や^{十九}う^{十九}こ^{十九}を^{十九}と^{十九}も^{十九}て^{十九}さ^{十九}せん^{十九}と^{十九}せ^{十九}り^{十九} ^{二十}そ^{二十}の^{二十}と^{二十}き^{二十}モーセ^{二十}う^{二十}ま^{二十}れ^{二十}て^{二十}い^{二十}こ^{二十}う^{二十}る

も^一く^一三^一ヶ^一月^一の^一あ^一ひ^一ご^一父^一の^一家^一に^一を^一ご^一て^一られ^一 ^二ま^二て^二ら^二ま^二し^二の^二ち^二ハ^二ロ^二の^二女^二こ^二を^二と^二ひ^二ろ^二ひ^二あ^二げ^二己^二の^二子^二と^二て^二を^二ご^二て^二たり^二 ^三モーセ^三こ^三も^三ぐ^三く^三エジプト^三び^三と^三の^三學^三術^三に^三し^三ら^三と^三言^三と^三行^三と^三に^三ち^三り^三あ^三り^三 ^四四十^四歳^四よ^四お^四よ^四び^四て^四そ^四の^四兄^四弟^四あ^四る^四イ^四ス^四ラ^四エ^四ル^四の^四子^四孫^四と^四う^四り^四そ^四の^四こ^四う^四ろ^四お^四こ^四ま^四り^四 ^五一^五人^五の^五あ^五ひ^五さ^五げ^五ら^五る^五も^五の^五を^五と^五も^五て^五こ^五を^五と^五保^五護^五エジプト^五び^五と^五と^五う^五ち^五て^五そ^五の^五仇^五と^五む^五く^五心^五たり^五 ^六モーセ^六ハ^六ワ^六の^六手^六と^六も^六て^六神^六の^六う^六ま^六り^六と^六ま^六く^六たん^六と^六し^六た^六ま^六ふ^六こ^六う^六を^六そ^六の^六兄^六弟^六さ^六と^六る^六あ^六らん^六と^六お^六も^六ひ^六 ^七い^七う^七ど^七う^七ま^七り^七ハ^七さ^七と^七う^七ざ^七り^七ま^七 ^八次^八日^八う^八ま^八り^八あ^八ひ^八關^八こ^八う^八あ^八 ^九う^九け^九ま^九ふ^九これ^九よ^九あ^九ら^九ち^九を^九と^九て^九和^九睦^九し^九ひ^九ける^九ハ^九ひ^九ら^九ぐ^九よ^九あ^九ん

てのまゝをみちびきいづせり ^{三〇} イスラエルの子孫より
て神あるんぢうの兄弟のうちよりわがこゝろき一人のよげ
んしやとるんぢうのためはおこしたまあべーといひい
まゐるんぢ ^{三〇} モーセあり ^{三一} こゝろ野の會より ^{三二} シナイ山
ておのきまうゝまゐるところの天使まゝわきまの列祖と
もよありてわきまよさづけんがため生こゝろをうけいも
のあり ^{三三} この人よわきまのせんそゝちあゝさくふことを
このまを反てこゝろをまゐりぞけその心まをエジプトよか
つり ^{三四} アロンよいひけるんわきまよさきさるづき神をわき
らのためよつくまそゝわきまをエジプトの地よりみちびき

いぞせし彼モーセハいりよありしうあゝさねるあり ^{三五} そ
の時うまう犢をつらりその像よつけはくとさうげ己の手
のわきをよるこべり ^{三六} こゝろよおいて神ハこゝろをこゝろり
うぞしてその天の軍勢をまゐるよまゐりせたまへり。まゐるを
ち預言者の書よ。イスラエルの族よるんぢうハ四十年のあひ
ご野よおいて犠牲と祭物をわきまよさうげいや ^{三七} まゝあん
ぢうハモロクの帳幕およびレバンの神よりこゝろをまゐる星を
みるんぢあんぢうが拜まゐるためよつくまるところの像をた
づさうたり。我るんぢうをバビロンのさきこゝろのさんと録さ
まゐるこゝろ ^{三八} わきまのせんそゝちハ野よて證のまゝくや

をゆかり。此ハモ―セよこつてまゐるものこつてよむうみて已^まは
み―ところの式^{かたち}よあそびひてつくまを命^{めい}ぜ―こつてつく
まゐるものあり ^{四五} わきまのせんぞたちこの帳幕^{ちやうまく}をうけて
ヨシアとともにも異邦人^{いほうじん}の地^ちをせめとり―ときこゝをたが
さくいきり。このいもうとんハダビデの時^{とき}までよわきらの
列祖^{れんそ}のまゝより神^{かみ}のおひをうひたまひ―ところのものか
そ ^{四六} ダビデ神^{かみ}のまゝよ恩^{おん}をうけてヤコブの神^{かみ}のためよ居^す
所^{ところ}をまうけんとねがひたをど ^{四七} ソロモン神^{かみ}のためよ殿^{だん}をた
てたり ^{四八} ちりまをとも至上^{あきたま}くみハ手^てのまをつくまるとこゝま
み―まをともまゐる預言者^{よげんしや}のつくるごとく ^{四九} まみたち主^まい

ひぢままこく天^{あま}ハわが座位^{ざい}あり地^ちハわが足^{あし}ありあんちろ
わがためにいらあむつくとたてんとまゐるつ、まゝ我^{われ}やまむ
ところのいづこあまや ^五 わが手^てハこのまぐてのものをつ
くまざりトや ^{五二} こつてあま―て心^{こゝろ}と耳^{みみ}よこつてまひと受け
まゐるものよるんぢろつねよ聖靈^{せいれい}よこつてひその列祖^{れんそ}のこ
ろくるあんぢろも行^ななり ^{五三} なんぢろのせんぞたちハいづま
の預言者^{よげんしや}をうまやまゝまゝ―つてこゝハ義者^{たけなま}のまゝらんこ
ろをあつてめこつて―ものをこゝろ―るんちろハ今^{いま}その
た―まゝものをまゝ―つてこゝろを殺^{ころ}すものとあま ^{五四} かん
ぢろハ天^{あま}のつてひよよりて律法^{りつぽう}をうけるはこゝをまゐる

ざるあり 吾衆人^{われら}のこころをきしておほふよいきとほ
り切齒^{きりこぼし}しつゝステパノはむくり^五 志くるよステパノハ聖靈^{せいれい}
はまごされ天^{てん}をおほひて神の榮光^{えいこう}とそのまぎは耶穌^{いしす}のた
てるときてのひけるハ 弄^{あそぶ}みよわを天^{てん}ひくけて神のみぎは
人の子のたてるともも 弄^{あそぶ}くよおひてうきくおほいよよ
まごそ耳^{みみ}をおほひ心^{こころ}をおほせてステパノのまごよこうけより
天^{てん}のまごを邑^{むら}よりおひりぞー石^{いし}をもてこころをうら^{うら}證人^{あかし}らお
のおのその衣服^{いふく}をサウロといつる少年^{せうねん}のあーのまごに
けを^{えん}うきくガ石^{いし}をもてステパノをうけるまごのまごのり
てのひけるハ主^{あか}いまごよわの靈魂^{たまご}をうけたまふ^{たまふ}まごひ

さまづき大聲^{おほいこゑ}よよひひけるハ主^{あか}よこの罪^{つみ}をうねるよお
ちむるるうま。この言^{こと}をひひとまうりて寢^ねよつく。サウロの
まごのころされーをよーとせり

第八章^{はちじゅう} この日^ひエルサレムはあるところの教會^{きうかい}をおほひよせ

むるこくおろり使徒^{しと}たちのほろハまごユダヤとサマリヤの
地^ちはちろされたり^ニ 敬虔^{けいけん}あるひちくステパノをはうむりこ
まごがためはおほひるる哭泣^{なみだ}をるせり^三 サウロハけうくを
いと殘害^{ざんがい}しつゝこの家^{いへ}より男女^{をとこ}をひきりぞーて
くまごを獄^{いご}よとせり^四 こころよおひてちろまごをるまご
も徧^{あまね}ゆきて福音^{ふくゆい}とのづつくだり^五 ビリツボハサマリヤの邑^{むら}は

くづりてキリストのことごとくきくは示^あき^六おほくの人々ピリツポ
がおこるふるふしきあるわざを見聞^{みき}してころるをおるド
う^七謹^{つつし}てそのことごとくをきけり^七そのけがきくる鬼^{おに}
おほいよさけん^八でそのつけるところのおほくの人よりい
でま^九癲^{ちやん}瘋^ふおよびあ^{一〇}くの人もおほくのやされされバ
ありハこまよりにてこの邑^まはおほいあるよるこびありき
九^{一〇}こ^{一一}よシモンとつくるも^{一二}魔術^{まじつ}をおこるひサマリヤの民
をおとろりせ^{一三}ものあり^{一四}小^いより大^{おほ}いなるまを皆^{みな}つ
一^{一五}してうれ^{一六}よきこの人^{ひと}の神^{かみ}のおほいあるちくらるありと
つくり^{一七}士^しうれ^{一八}のつ^{一九}して^{二〇}ころまよきけるひさ^{二一}くそ

の魔術^{まじつ}はおとろりされたるがゆゑあり^{二二}ち^{二三}りきともうれ
ら神^{かみ}の國^{くに}および耶穌^{いそ}キリストの名^なよつきて福音^{ふくいん}をのぶる
ピリツポを信^まぜ^{二四}う^{二五}い^{二六}を^{二七}と^{二八}こ^{二九}を^{三〇}ん^{三一}る^{三二}もバプテスマをう^{三三}く^{三四}
シモンもま^{三五}く^{三六}あ^{三七}ん^{三八}よ^{三九}てバプテスマを受^うけ^{四〇}ね^{四一}よピリツポととも
よありてう^{四二}ま^{四三}が^{四四}お^{四五}こ^{四六}ろ^{四七}か^{四八}と^{四九}ろ^{五〇}の^{五一}ふ^{五二}き^{五三}ある^{五四}わざと休^{やす}め^{五五}
を^{五六}と^{五七}て^{五八}お^{五九}と^{六〇}ろ^{六一}け^{六二}り^{六三}エルサレム^{エルサレム}よを^{六四}る^{六五}使徒^{しと}たち^{六六}サマリヤ^{サマリヤ}を
よ神^{かみ}の道^{みち}をう^{六七}け^{六八}たり^{六九}とき^{七〇}て^{七一}ペテロ^{ペテロ}とヨハネ^{ヨハネ}を^{七二}こ^{七三}こ^{七四}よ^{七五}つ
の^{七六}ま^{七七}ま^{七八}この^{七九}二^{八〇}人^{にん}の^{八一}もの^{八二}ら^{八三}づ^{八四}り^{八五}て^{八六}うれ^{八七}ら^{八八}が^{八九}聖^{せい}靈^{りやう}を^{九〇}う^{九一}け^{九二}ん
た^{九三}ら^{九四}め^{九五}よ^{九六}い^{九七}の^{九八}ま^{九九}り^{一〇〇}そ^{一〇一}の^{一〇二}ま^{一〇三}り^{一〇四}た^{一〇五}主^まい^{一〇六}ま^{一〇七}の^{一〇八}名^なよ^{一〇九}い^{一一〇}ま^{一一一}り^{一一二}
バプテスマをう^{一一三}け^{一一四}り^{一一五}の^{一一六}ま^{一一七}り^{一一八}て^{一一九}いま^{一二〇}ま^{一二一}そ^{一二二}の^{一二三}一^{一二四}人^{にん}も^{一二五}聖^{せい}靈^{りやう}を^{一二六}う^{一二七}け^{一二八}

らざりしはよる ^七 この時 ^七 ありの ^七 手 ^七 を ^七 せ ^七 う ^七 の ^七 う ^七
よおきけ ^七 び ^七 う ^七 の ^七 せ ^七 い ^七 ん ^七 と ^七 う ^七 け ^七 う ^七 り ^七 大 ^七 使 ^七 徒 ^七 た ^七 ち ^七 の ^七 手 ^七
を ^七 お ^七 け ^七 る ^七 よ ^七 よ ^七 り ^七 て ^七 聖 ^七 霊 ^七 を ^七 あ ^七 ら ^七 け ^七 ら ^七 せ ^七 し ^七 と ^七 して ^七 シ ^七 モ ^七 ン ^七 金 ^七 と ^七
を ^七 ち ^七 き ^七 け ^七 り ^七 の ^七 せ ^七 う ^七 よ ^七 つ ^七 ひ ^七 け ^七 る ^七 大 ^七 九 ^七 わ ^七 が ^七 手 ^七 を ^七 お ^七 く ^七 と ^七 ころ ^七 の ^七
もの ^七 も ^七 せ ^七 ぐ ^七 て ^七 聖 ^七 霊 ^七 を ^七 う ^七 け ^七 ん ^七 た ^七 め ^七 は ^七 この ^七 權 ^七 を ^七 わ ^七 せ ^七 る ^七 も ^七 あ ^七 ら ^七
つ ^七 よ ^七 二 ^七 十 ^七 ペ ^七 テ ^七 ロ ^七 の ^七 せ ^七 う ^七 よ ^七 つ ^七 ひ ^七 け ^七 る ^七 大 ^七 十 ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 う ^七 ね ^七 は ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七
とも ^七 よ ^七 ほ ^七 ら ^七 び ^七 よ ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 は ^七 神 ^七 の ^七 賜 ^七 を ^七 う ^七 ね ^七 ま ^七 て ^七 え ^七 ん ^七 と ^七 も ^七 ち ^七
を ^七 三 ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 こ ^七 ろ ^七 よ ^七 お ^七 い ^七 て ^七 分 ^七 る ^七 く ^七 ま ^七 へ ^七 與 ^七 へ ^七 し ^七 そ ^七 の ^七 あ ^七 ん ^七
ち ^七 の ^七 こ ^七 ろ ^七 神 ^七 の ^七 ま ^七 く ^七 よ ^七 た ^七 し ^七 の ^七 う ^七 せ ^七 三 ^七 ゆ ^七 急 ^七 は ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七
惡 ^七 と ^七 ら ^七 ん ^七 あ ^七 ら ^七 た ^七 め ^七 て ^七 神 ^七 は ^七 い ^七 の ^七 せ ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 こ ^七 ろ ^七 の ^七 念 ^七 あ ^七 ら ^七
ひ ^七 は ^七 ゆ ^七 る ^七 さ ^七 ま ^七 ん ^七 三 ^七 わ ^七 れ ^七 る ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 膽 ^七 の ^七 苦 ^七 は ^七 ち ^七 り ^七 不 ^七 義 ^七 の ^七 繫 ^七 は ^七
を ^七 う ^七 と ^七 ら ^七 ね ^七 ば ^七 あり ^七 二 ^七 十 ^七 シ ^七 モ ^七 ン ^七 の ^七 う ^七 せ ^七 て ^七 つ ^七 ひ ^七 け ^七 る ^七 大 ^七 十 ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七
が ^七 こ ^七 ろ ^七 の ^七 せ ^七 う ^七 と ^七 ころ ^七 一 ^七 も ^七 わ ^七 せ ^七 は ^七 お ^七 よ ^七 を ^七 せ ^七 る ^七 や ^七 う ^七 わ ^七 が ^七 た ^七 め ^七 は ^七
主 ^七 は ^七 い ^七 の ^七 せ ^七 二 ^七 十 ^七 五 ^七 こ ^七 う ^七 の ^七 主 ^七 の ^七 こ ^七 と ^七 を ^七 證 ^七 し ^七 の ^七 う ^七 つ ^七 こ ^七 を ^七 せ ^七 て ^七 ころ ^七
一 ^七 の ^七 ち ^七 エ ^七 ル ^七 サ ^七 レ ^七 ム ^七 の ^七 う ^七 せ ^七 り ^七 ゆ ^七 く ^七 と ^七 き ^七 サ ^七 マ ^七 リ ^七 ヤ ^七 人 ^七 の ^七 む ^七 ち ^七 く ^七 は ^七 ふ ^七 く ^七
い ^七 ん ^七 を ^七 つ ^七 せ ^七 たり ^七 〇 ^七 六 ^七 主 ^七 の ^七 つ ^七 つ ^七 ひ ^七 ピ ^七 リ ^七 ツ ^七 ポ ^七 は ^七 こ ^七 う ^七 せ ^七 り ^七 て ^七 い ^七 ひ ^七
け ^七 る ^七 は ^七 起 ^七 て ^七 み ^七 あ ^七 る ^七 の ^七 が ^七 は ^七 む ^七 う ^七 ひ ^七 エ ^七 ル ^七 サ ^七 レ ^七 ム ^七 の ^七 り ^七 が ^七 ザ ^七 は ^七 ら ^七 せ ^七
る ^七 と ^七 ころ ^七 の ^七 路 ^七 は ^七 け ^七 ぞ ^七 の ^七 う ^七 ち ^七 は ^七 野 ^七 あり ^七 三 ^七 〇 ^七 起 ^七 て ^七 け ^七 ぞ ^七
エ ^七 テ ^七 ヲ ^七 ピ ^七 ア ^七 人 ^七 を ^七 み ^七 ち ^七 エ ^七 テ ^七 ヲ ^七 ピ ^七 ア ^七 び ^七 と ^七 の ^七 女 ^七 王 ^七 カ ^七 ン ^七 ダ ^七 ケ ^七 の ^七 大 ^七 臣 ^七
ある ^七 寺 ^七 人 ^七 を ^七 て ^七 せ ^七 ぐ ^七 て ^七 そ ^七 の ^七 は ^七 よ ^七 わ ^七 ら ^七 の ^七 財 ^七 寶 ^七 と ^七 つ ^七 つ ^七 せ ^七 とも ^七 も

らざりしはよる ^七 この時 ^七 ありの ^七 手 ^七 を ^七 せ ^七 う ^七 の ^七 う ^七
よおきけ ^七 び ^七 う ^七 の ^七 せ ^七 い ^七 ん ^七 と ^七 う ^七 け ^七 う ^七 り ^七 大 ^七 十 ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 手 ^七
を ^七 お ^七 け ^七 る ^七 よ ^七 よ ^七 り ^七 て ^七 聖 ^七 霊 ^七 を ^七 あ ^七 ら ^七 け ^七 ら ^七 せ ^七 し ^七 と ^七 して ^七 シ ^七 モ ^七 ン ^七 金 ^七 と ^七
を ^七 ち ^七 き ^七 け ^七 り ^七 の ^七 せ ^七 う ^七 よ ^七 つ ^七 ひ ^七 け ^七 る ^七 大 ^七 九 ^七 わ ^七 が ^七 手 ^七 を ^七 お ^七 く ^七 と ^七 ころ ^七 の ^七
もの ^七 も ^七 せ ^七 ぐ ^七 て ^七 聖 ^七 霊 ^七 を ^七 う ^七 け ^七 ん ^七 た ^七 め ^七 は ^七 この ^七 權 ^七 を ^七 わ ^七 せ ^七 る ^七 も ^七 あ ^七 ら ^七
つ ^七 よ ^七 二 ^七 十 ^七 ペ ^七 テ ^七 ロ ^七 の ^七 せ ^七 う ^七 よ ^七 つ ^七 ひ ^七 け ^七 る ^七 大 ^七 十 ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 う ^七 ね ^七 は ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七
とも ^七 よ ^七 ほ ^七 ら ^七 び ^七 よ ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 は ^七 神 ^七 の ^七 賜 ^七 を ^七 う ^七 ね ^七 ま ^七 て ^七 え ^七 ん ^七 と ^七 も ^七 ち ^七
を ^七 三 ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 こ ^七 ろ ^七 よ ^七 お ^七 い ^七 て ^七 分 ^七 る ^七 く ^七 ま ^七 へ ^七 與 ^七 へ ^七 し ^七 そ ^七 の ^七 あ ^七 ん ^七
ち ^七 の ^七 こ ^七 ろ ^七 神 ^七 の ^七 ま ^七 く ^七 よ ^七 た ^七 し ^七 の ^七 う ^七 せ ^七 三 ^七 ゆ ^七 急 ^七 は ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七
惡 ^七 と ^七 ら ^七 ん ^七 あ ^七 ら ^七 た ^七 め ^七 て ^七 神 ^七 は ^七 い ^七 の ^七 せ ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 こ ^七 ろ ^七 の ^七 念 ^七 あ ^七 ら ^七
ひ ^七 は ^七 ゆ ^七 る ^七 さ ^七 ま ^七 ん ^七 三 ^七 わ ^七 れ ^七 る ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七 膽 ^七 の ^七 苦 ^七 は ^七 ち ^七 り ^七 不 ^七 義 ^七 の ^七 繫 ^七 は ^七
を ^七 う ^七 と ^七 ら ^七 ね ^七 ば ^七 あり ^七 二 ^七 十 ^七 シ ^七 モ ^七 ン ^七 の ^七 う ^七 せ ^七 て ^七 つ ^七 ひ ^七 け ^七 る ^七 大 ^七 十 ^七 あ ^七 ん ^七 ち ^七 の ^七
が ^七 こ ^七 ろ ^七 の ^七 せ ^七 う ^七 と ^七 ころ ^七 一 ^七 も ^七 わ ^七 せ ^七 は ^七 お ^七 よ ^七 を ^七 せ ^七 る ^七 や ^七 う ^七 わ ^七 が ^七 た ^七 め ^七 は ^七
主 ^七 は ^七 い ^七 の ^七 せ ^七 二 ^七 十 ^七 五 ^七 こ ^七 う ^七 の ^七 主 ^七 の ^七 こ ^七 と ^七 を ^七 證 ^七 し ^七 の ^七 う ^七 つ ^七 こ ^七 を ^七 せ ^七 て ^七 ころ ^七
一 ^七 の ^七 ち ^七 エ ^七 ル ^七 サ ^七 レ ^七 ム ^七 の ^七 う ^七 せ ^七 り ^七 ゆ ^七 く ^七 と ^七 き ^七 サ ^七 マ ^七 リ ^七 ヤ ^七 人 ^七 の ^七 む ^七 ち ^七 く ^七 は ^七 ふ ^七 く ^七
い ^七 ん ^七 を ^七 つ ^七 せ ^七 たり ^七 〇 ^七 六 ^七 主 ^七 の ^七 つ ^七 つ ^七 ひ ^七 ピ ^七 リ ^七 ツ ^七 ポ ^七 は ^七 こ ^七 う ^七 せ ^七 り ^七 て ^七 い ^七 ひ ^七
け ^七 る ^七 は ^七 起 ^七 て ^七 み ^七 あ ^七 る ^七 の ^七 が ^七 は ^七 む ^七 う ^七 ひ ^七 エ ^七 ル ^七 サ ^七 レ ^七 ム ^七 の ^七 り ^七 が ^七 ザ ^七 は ^七 ら ^七 せ ^七
る ^七 と ^七 ころ ^七 の ^七 路 ^七 は ^七 け ^七 ぞ ^七 の ^七 う ^七 ち ^七 は ^七 野 ^七 あり ^七 三 ^七 〇 ^七 起 ^七 て ^七 け ^七 ぞ ^七
エ ^七 テ ^七 ヲ ^七 ピ ^七 ア ^七 人 ^七 を ^七 み ^七 ち ^七 エ ^七 テ ^七 ヲ ^七 ピ ^七 ア ^七 び ^七 と ^七 の ^七 女 ^七 王 ^七 カ ^七 ン ^七 ダ ^七 ケ ^七 の ^七 大 ^七 臣 ^七
ある ^七 寺 ^七 人 ^七 を ^七 て ^七 せ ^七 ぐ ^七 て ^七 そ ^七 の ^七 は ^七 よ ^七 わ ^七 ら ^七 の ^七 財 ^七 寶 ^七 と ^七 つ ^七 つ ^七 せ ^七 とも ^七 も

キリストハ神の子ありと云んを遂にめいとて車とて
めー然ピリツポと寺人のあつり水よりづりピリツポバブテ
スマとての道よりほごせり三九の道より水よりあがらるるとき主
の靈ピリツポをひきよる寺人すこり道をとるここととをえり
き。寺人よりうびてその路とゆけり四十さてアンドッて
ピリツポよあつるものあり。うれまづてのむらざりと經て
福音とめづつてカイザリヤよりつてり

第九章 サウロハるあやも兇言と殺氣をそきて主のでーたむ
とせぬ祭司のときよあきてニダマスコの諸會堂よりあつる
書とめとむ。の道よこの道よとてぐるものどころバ男女よ

いふとてびとてつてこをエルサレムよひくとおとり
三、の道ゆきてダマスコよちりづけるときたちまち天より
光ありての道をめぐりてつてり四の地またある。そのと
きサウロサウロあよめ我とせむるやとつかゝるをきけ
り五サウロツひけるハ主よるんちいたを。主ツひたまひ
けるハわらるんぢが窘迫とてその耶穌ありあんち刺あ
るむちとけるん六の道戦慄おとちきてツひけるハ
主よわらるんちとあさーめんこーたまふや。主の道よツひ
けるハあきて邑よの道とてあんち行づきとてあめさ
るべー七の道とてあにゆける人々ものりふこくとあさるぞ

して立ちまわりその聲をきけども誰ともさうりきハサウロ
地よりおきて眼をひらきたるに何もさうりけきハとも
あくる人たちその手をひきてタマスコよりぬル連三日
の間さうえをまゝ飲食をもせざりきハのくてタマスコよアナニア
とワラる一人のてあり主まがらゝのごとくうれしソひ
たまひけるハアナニアよ答けるハ主もさうりあり主い
ひさまひけるハたちて直とワラる街はあきユダのいさよ
ワラりてタルソの人サウロとワラるものをたづねよこのきい
祈禱となり主のうらアナニアとワラる人きさうりてさうりことを得
させんかとも手とそのうらハあきと異象ハさうりればあ

そ主とされどアナニアさうりけるハ主よわれこの人ハつき
ておほくの人のうささるをきくハこれガエルサレムよて
あんちの聖徒とさうりめハことワラるむりりそやさうりこ
のとさうりてもうささるまぐてあんちの名をよぶものさ
らくんとて祭司のささよりうけさる權威をゆてり主い
ひさまひけるハ往よのささ異邦人かよひ王とイスラエルの
子孫のまらよわら名を擔ハめんたりにわらえさるハ器あ
りさうりわら名のたあよいらむりりの苦難とさうりさ
わきこれをうささあめさんさうりよおいてアナニアゆきて
その家より手をうささのうらハ按てひらるハ兄弟サウロ

よあへぢのきうくさる路うてあうされーとららの主耶穌を
んちうふく、び見こくをえうの聖靈一こくさるんたれ一
わきをつらちせり、たちきうちうきの眼より鱗のこくきも
のおちて再さるこくを得るまち起てバフテスマをうく
うれきでに食しそちうづきうり。うくてサウロハ數日の
おひさダマスコ一ある門徒たちとまらちり、手たち一會堂
一おいて耶穌のこくをのて即ちこくハ神の子ありとい
よ、きくものそる駭異ていひけらハこの人ハエルサレム一お
いてこの名をよハゆめとほちる一且こくにまらり一もこ
きとどくして祭司の長一ひうんとまら一あうまや、あう

きともサウロハゆうまう堅固一そこの耶穌ハキリストあり
とあう一をな一ダマスコ一をらとららのユダヤ人をツひふ
せうり、まをにおほくの目とへてのちユダヤびとサウロ
をころさんとほうり一が、その計謀つひ一サウロ一とせ
ら。うきうハ晝夜まらちの門をまらりてこくをころさんとせ
一に、門徒たち夜うとをゆてサウロを石牆よりつらあら
せり、サウロハエルサレム一いりて門徒たち一つらあらん
とまらり一皆うきう門徒くこくを信せま一そこを
おそる、バルナバうきをひきて使徒たちのゆくにいりそ
の途中うて主をみ一こくまら主のうきううりたまひ一

ことおよびダマスコありてまゝは耶穌の名よりて
のりてつげたり 六うれエルサレムありてて
ちとよに往來し元主いほその名よりてまゝ
たりうらキリシヤ方言のユダヤびくひあそく
サウロとらるさんとよのり 三十一さきと兄弟
アウロとカイザリヤまておくりてタルンよゆう
らよおつてユダヤガリラヤおよびサマリヤ中
平安より成立て主をおそき事をおとるい聖靈
よよりてその數いやまきさきり 三十三さて
の地をへてルツダよまめる 聖徒のまにいり 三十三
そのまら

よて一人のちゆうぶをわづらひ八年のあひと床よつける
アイネアとらるるものよあふ 三四ベテロウらよいひける
アイネアよ耶穌キリストあんぢといやき起てるんぢ
床をよめよこのきたぢよ起 三五ルツダおよびサロニ
まての人をよて主よ歸せり 三六ヨッパよ女のでり
りダビタとらるる譯バトラスうれおほくの善事と施濟
をおこるるものありが 三七そのころ病てまに
りその屍をあひて樓よおけり 三八ヨッパをルツダ
急門徒たちペテロのこよあることをきく二人のものを
つのもてわづらよるることをおそくまらるるくと請

む 元 ペテロたちてこうきうとともよゆき既スワケりけきば
人々こうきうをひきて樓^{たき}のほるまぐての寡婦^{やうふ}たちペテロの
うさばらまたちて哭泣^{うけき}つてドルカスカとよにあり一時^{とき}つね
よつくきうとともものうを衣^きあそ衣^ぎをうきよみま 四 ぺテロ
のきうをこころぐく外^{そと}よいづ 跪^{ひざませ}ていのをまうさるうをねよ
むうひてダビタあきよとりひけきばこのをんる眼^めをひらき
ペテロを見^みあきうてさーぬ 三 ぺテロ手^てをのべてらきをかこ
一 聖徒^{せいと}およびやめたちをよびてこの活^{なご}たるダビタをそ
のまへよたぐしめたり 四 このことヨッバ中^{なか}はあき多^{おほ}のひと
ひと主^まを信^まを 三 ころくてペテロひきうくヨッバよくとまりて

皮エシモンのソコよとまり

第十章

カイザリヤよイタリヤ隊^{たい}とともある組^{ぐみ}の百人^{ひゃくにん}のうら

ころてコルネリヲといくら人^{ひと}あり 二 うきる信^ま心のふりきもの
よてそのまぐての家族^{かぞ}とともに神^{かみ}をうやまひ民^{たみ}よあはく
のほごこーをあし。つねよ神^{かみ}よ祈^{いの}禱^{たて}せり 三 ひるの三時^{さんじ}ころ
まはらーのじくく神^{かみ}のつくりひのきうりてコルネリヲうとい
つるよあきうらたき 四 うき目を注^つこきとておそきい
ひけるハ主^まよあるよごとあるや。天使^{てんし}うきよソひけるいあん
ちのいのをあんちの施^ほ濟^じまをよのたうりて神^{かみ}のまへよ記^まお
うきたり 五 いま人をヨッバへつてのまへペテロとソハシモンを

よぐ^六のきく皮エシモン^{シモン}のころろよやとむり。その家^いう
みべよあま^セコルネリヲよころろる天使^つさりーのちわれを
の僕^まふり^りと恆^ねよおのきよつづめる信心^まのありき兵卒^へと
よびハこのことととくつげてヨツバへつり^を九^のと
らゆきを次日^ふその邑^やよちのづけるときペテロ^ペ祈禱^{いの}のよめ
屋上^やよの存^ぞり。時^{とき}ハあやよそ十二時^{じふ}ありー十^のと餓^いて
食^かせんとおひーケ人^にのあよくもつを豫備^ぞらちよのき氣^き
をりーあつるころちり^を土^ち天^{てん}ひく^け器^ぐのらぶまるともる
大^おある布^ののころく四角^しをむまびて地^ちよつりおらされり
十三^のそのあ^のよまべて地^ちのよつあ^のの獸^い昆虫^ちおよひ空^その鳥^{とり}

あり^{十三}うら聲^{こゑ}ありてうきよひひけるハペテロよ起^おてく
とろろー食^かせよ^{十四}ペテロとくけるハ主^まちよつろ^とわき
いま^い穢^けたるものと潔^きうらざるものと食^かせーことお^{十五}
聲^{こゑ}あつてびありてうれよひひけるハ神^{かみ}のきつめたるもの
をらんちまよころむとまるとま^{十六}このころきこと三^の
次^{つぎ}たごちよそのうつもの天^{てん}よあげらま^とり^{十七}て
ペテロその見^みーところの異象^いハい^うある意^いあ^くんとく^{十八}
がひをりーときコルネリヲより遣^つさ^せるひとごちま^とよ
シモン^シの家^いとたづねて門^{かど}のま^まよたち^{十九}呼^よてペテロとい^よ
シモンハ^ハて^てよ^よや^やとれるや否^{いな}と^とよ^{二十}ペテロあ^あを^をその^{その}は

ろーのころをおもひをりー^二靈^三うきよひけるハみよ^三
人のものあんちをたらぬ^二起^三てくさううたふもぞーあ
きうともによけ我^三をきをつらもせーあり^三ペテロく
てその人たちよひけるハわきハあんちくたつぬる
くろのものありあんちくつある故^三ありてきこるや^三
らきうひけるハ百人の長^三あるコルネリヲとつる義^三うつ
神^三とーやまひまぐてのユダヤびとのうちよたよとまきもの
あんちとその家^三よびてなんちの言^三をきけと聖^三つうひよ
あめされたり^三こよおつてペテロくきくとよびひきて
やうくーめ次日^三ペテロくきくとともはいでたちける

ヨッパのきやうだいたちもまこくきとともあくる^二つぎの
日^三のきくカイザリヤよるコルネリヲハまをよその親^三族^三およ
びきくーき友^三たちをよびあつめてくきとまぢあひ^三
ペテロの入^三きこつるときコルネリヲくきとむうくそのあ
もとにふーて拜^三ミ^三ペテロくきとひまかこーひけるハ
起^三よわをも人^三あり^三こくしてともはこつりつ内^三よりて
おほくの人のあつまをるを見^三こくきくよひけるハユダヤ
ひとの異^三邦^三人とまぢたりまこちつづくこの律^三よあを
さるハあんちくのきるところあり。されど神^三ハつぎの人
をもけがきこるもの或^三ハきよくさるものとりあなる

とわきよは示^またまへり 元 このゆゑは我^{われ}むくくらふやいな
猶豫^{うやうや}をきこふ。わきよらんぢよらん我^{われ}をむくらん
にのたあるるや 三 コルネリヲつひけるハ四日^{よっぴ}さきよわき断^つ
食^くしてこの時刻^{とき}よいつこもり 三時^{さんじ}ごろ家^{いへ}はありていのきを
りよようやける夜^よをきこふものわが前^{まへ}はたち 三 つひけ
るハコルネリヲよるんぢの祈^{いのり}禱^{たがひ}ハきこふるんぢのほごこ
ハ神^{かみ}のまへよ記^きおきこり 三 さねが人をヨツバつつた
ペテロとツムシモンをよぶ。うま海^{うみ}邊^へはあるりたるぬ
シモン^{シモン}のツムシヨやねれも彼^かきこりてらんぢよいつこるべ
と 三 このゆゑは我^{われ}たぢよらん人をらんぢよいつこるをせりらん

ちのまへに善^よわきよ神^{かみ}のあんぢよ命^{いのち}トたまつるまへ
てのこころをきかんよいつま神^{かみ}のまへはあるあり 三 ペテロ
口^{くち}をひらきてつひけるわきよことよ神^{かみ}ハうまよいつこる
ものよいつづきの國民^{こくみん}よても神^{かみ}をうやまひ義^{ちかひ}をおとる
ふものハその聖^{せい}旨^しようあよいつまことをささる 三 その道^{みち}
ハまをらんち神^{かみ}の耶穌^{いしす}キリストよいつこりて平和^{へい}をのべイスラエル
の子孫^{こぞ}よあそきたまひよいつこるあり此^{こゝ}いほをハあつめる
もの、主^{しゅ}たるあり 三 そきヨハネの宣^{のたま}ハバプテスマのつち
カリラヤよりまどまりユダヤ中^{ちゆう}はありよいつこるらんぢ
のあつるところ 三 まをらんちこのナザレよりいつこる 耶^や

蘇イサの神カミよりせいまいと才能サイノウをもてあぶらをとろくられあま
ねくめぐりて善事ヨキコトをおとあひまぐて悪魔アクマよつこのまじりも
のをいやせり。その神カミのまじりによるニ元ハわきつらハ
のまじりがユダヤびとの地チおよびエルサレムエルサレムよおいておとあひ
—まぐてのこころを證アハするものありユダヤびとのこの人ヒトを
ホマようけてこころせり 四四神カミの第三日第三日よこころをよみぐへうせ
まぐての民タリよらあうそまぐて 四四たぐそのあうくめぐりてさうび
たまくる證人アハシまみそち彼カレがよみぐへうのちこころをこも
一一飲食ウケせしまぐてよのこころを顯アハしたまへり 四四うのまじりその
生者ウケと死者シノのさそまじりよ神カミよりさそめらむしこころをわ

まぐてよありしして民タリよのこころを命イコたり 四四まぐての預言イコ
者ヒトもおほよそこのまじりと信アヒするものいその名ナよよりて罪ツミのあ
るしをうくべしとこのまじりつきて證アハせり 四四ペテロペテロこの言コトを
うくまじりあひごよ道ミチをまぐてこころのまぐてのものよ聖靈セウレイ
くまじり 四四ペテロペテロとこもよまじり—割禮ハルカヒある信者アヒたちハ
せいまいの賜たまはいさうしんよまぐてまじりこころをおとあひま
ぬ 四四その異なるヒトくまじりの方カタ言コトよてうまじりかうまじりと神カミ
をあまむるとまじりたむはるり 四四このまじりペテロペテロこころ
けるハわきまのこころまぐてに聖靈セウレイをうけけるこの人ヒト々々よ
たむら水ミヅを禁きんしてバプテスマバプテスマをうけさうしむるものあらん

や四つひは主の名によりてバプテスマをうくべきことなるを
命命ま。このにおいてこれくペテロは數日数日とてあつらん
ことを請請つり

第十一章

使徒たちおよびユダヤ中中はあるところの兄弟兄弟を
よいもうとんも神のこころをうけたりと聞聞べテロエルサレム
よのほうりとき割禮割禮あるものどもうせとあつそひ三つひ
けるはあんぢらうらきいあき人の家家はつりてうせしこと
もに食食せり四ペテロそのありいはより次第次第よりつり
てのせうよあつと一ひけるは五これヨツバの邑邑はありて
いのせらるとき氣氣をうらめることちして天天よりよきを

ついでるおほひなる布布のごときうつものくるをみても
にその器器わがもくにつけそ六目を注注てつらうこと
とらむるもの地の四足四足のものにあきけもの昆蟲昆蟲あよ
びそのの鳥鳥ありき七うらむせよペテロよ起起てこころを
しあうとせしつる聲聲をきけそハちをひひけるは主
よとつる穢穢たるものときようらむるものはいまわが
口口よいししこと九聲聲まゝ天天よりちをよこして神の
きこめたるものとするんぢきこつらむとまるるあつれし
+このくのごときこと三三次次つひはまゝそのものあつび天
よひきわけらむ十その時時はあつりてカイザリヤよりわ

れまうつゝさしせる三人のものもつゝさしせるところの家のまへは
たてを^{十三} まう^今 靈^{たま}を^{たま}れまうつゝさしせるところの家のまへに
く^{十三} 下^{くだ}と^とつ^つく^くも^もつ^つこの六人の兄弟もわれともあひゆ
きてその人のつゝさし^{十三} ぬ^ぬ うれ^{うれ}ま^まつ^つて^て天^{てん}のつ^つつ
ひのわが家^{いへ}は^はち^ちわれ^{われ}は^はむ^むう^うひ^ひて^て人^{ひと}を^をヨッパ^{ヨッパ}つ^つつ^つの^のま^まし
ペテロ^{ペテロ}と^とら^らふ^ふシモン^{シモン}を^を迎^{むか}へ^へよ^よ ^{十四} その人^{ひと}らん^{らん}ち^ち押^おさ^さび^びあん^{あん}ち^ちの
家族^{かぞく}のま^まく^くち^ちも^もく^くま^まを^をつ^つげ^げんと^とつ^つく^く 我^{われ}見^みたり^りと
^{十五} ころ^{ころ}そ^そわ^わが^がか^かり^りそ^そめ^めし^しと^とき^き聖^{せい}靈^{りゆう}を^をめ^めは^はわ^われ^れく^くよ^よと
た^たま^まし^しころ^{ころ}く^くうれ^{うれ}ま^まも^もら^らせ^せれ^れを^を ^{十六} そのとき^{とき}わ^われ^れは^は主^ちのい
ひ^ひを^をき^きく^くる^るヨハネ^{ヨハネ}の^の水^{みづ}を^をめ^めて^てバプテスマ^{バプテスマ}を^をな^なした^たれ^れも^もあ

んぢ^{んぢ}ら^らハ^ハ聖^{せい}靈^{りゆう}を^をめ^めは^はわ^われ^れく^くよ^よと^ところ^{ころ}の^のま^まへ^へに^にお
も^もい^いさ^させ^せり^り ^{十七} ま^まを^をよ^よ神^{かみ}の^の主^ちい^いと^とを^をキリス^{キリス}ト^ト派^{はい}せん^{せん}ま^まを^を
と^ところ^{ころ}の^のわ^われ^れく^くよ^よた^たま^まし^しと^とき^きあ^ある^るト^ト賜^{たま}物^{もの}を^をく^くれ^れく^くよ^よ
あ^あそ^そた^ため^めく^くを^をめ^めは^はわ^われ^れい^いと^とを^を神^{かみ}の^のま^まへ^へに^にお^おも^もい^いさ^させ^せり^り
く^くれ^れく^くよ^よの^のこ^ころ^ろに^に成^なり^りて^て對^{たい}する^ると^ところ^{ころ}に^にあ^ある^るた^た 神^{かみ}を^をあ^あが
め^めい^いひ^ひける^るハ^ハ實^{じつ}は^はあ^あら^らん^んい^いと^とう^うト^トん^んの^の生^いを^をえ^えん^んと^とめ^めよ
う^うれ^れく^くよ^よも^も悔^{くわ}改^{かい}を^をあ^あそ^そく^くま^まする^ること^と ^{十九} さ^さて^てステ^{ステ}バ^バノ^ノま^まつ
いて^{いて}お^おこ^ころ^ろに^に苦^く難^{なん}を^をよ^より^りて^てち^ちく^くさ^され^れく^くも^もひ^ひと^とく^く旅^{たび}し^して
ペ^ペニ^ニケ^ケク^クプロ^{プロ}お^おう^うび^び アンテ^{アンテ}ラ^ラケ^ケよ^よい^いと^とう^うか^かた^たぶ^ぶユ^ユダ^ダヤ^ヤ人^{ひと}よ
の^のこ^ころ^ろを^をく^くれ^れく^く ^{二十} うれ^{うれ}く^くの中^{ちゆう}に^にク^クプロ^{プロ}クレ^{クレ}ネ^ネの^のひ^ひと^とく^く

ありてアンテヲケはきこり主イエスの福音をのべてギリシヤ人をもかこむり 二主の手あれとまにあり。おほくの人志んトて主は歸せり 三うれはよつきてそのまこえエルサレムはあふるところの教會のみはいつまいつまをつひはバルナバをつのちてアンテヲケはいたらしむ 四うれをよいつり神の恩減みえよるこびうれはあふる減かさうし主は屬人こをまこめとま 五うれはよきひとよて聖靈と信仰のみゆるものなれがなりこつよおいてあまこのひと主はとち、まぬ 五さてバルナバをサウロ減たぶぬんためはタルソよおもむき 六うれはあひてあれはアンテヲケはつれまこ

ま。うれてうれは一年のあひごまにたうらまははあつまりておほくの民減をふ。門徒たちのキリステアんとあふられハアンテヲケよりまらとまねも 七あのことろ數人のよげんあやエルサレムよりアンテヲケはきこる 八その中のひとりアカボと名るものたちて靈はより示したるは世界中はおほいある 饑饉あらんとそのあとなごしてクラウデヨカイザルのとまよあひこり 九あににおいて門徒たちおのくそのちうらはあごこひてユダヤはまめるところの兄弟とまよをんためはうれはよものをおくらんあつ減さうづめ 十つひよあのことろ減あこちま。まるとちバルナバとサウロの手は托して

あられは長老におくれま

第十三章 そのころへロテ王けうとろふのうちの數人あやま

さんとしてうれはさうふ二つら飛をそヨハネの兄弟

ヤコブあろせり三のこのユダヤ人のあろよか

つるを見てうれまこペテロをもさうふ。あのとまら除酵パ

このいさむの日なりき四ませようれはさうて獄よれ

まきあ一の節れのち民のまよひきりごさんとあひ十

六人のついでさうよあれとまらめたり五ペテロハ如此

ひとやよまらうれ教會ハあれがとあよひさまる神よいの

る六へロテうれとひきりごさんとまらまの夜ペテロハ

あつつの鏈よつみうれてゆりの兵卒のあひごよぬむり

守者ハ門のまよありてそのひとやとまらぬまよとまら

主の使者きりりれバ光ひとやのうちよ照耀をのつりひ

ペテロの脇をたくきてあれはさうまらまみやりよあきよとい

ひよは鏈その手よりあちさうハ天使うれよひひけるな

んち帯をあらとらはまけよ。ペテロそのこくせり。天使ま

こひひけるはちんちのうまぎを身よまらひてあれよ志こ

ガハ九ペテロつてこれよ從うひよそれつひのなれこ

とれ眞實なるを志こはまらろーあんとあまよ十のく

第一だいの二の警固をまらまらよりるところの鐵門よい

たりしよそのもんおのつううれうのうめよひらく。まゐ
らち出てひうつの衛とまぎやくときその天使たちまゐの
れりちるれり ^{十一}ペテロさうりてひけるハわき今ま
こゝにまゐる主そのつひをつつちへテの手押うび
をてエダヤ人の女をふよりわれはまきひりぐたぬい
しこゝを ^{十二}うき醒悟のちヨハネ名はマコとひみ人の母
あるマリアのつういたまはあむくの人あまあらまりて
祈 ^{十三}マテロのもん戸はたけるときローダと
なつら下婢 ^{十四}きさうりてまれをうかひしよ ^{十五}ペテロの聲
あるとありたればようまひまたん門をひりうきし

かけつをペテロのまんのまくよたつことを告 ^{十五}かれら
ローダよひけるいなんち狂もされとも女のひもをて
まごころをたがをたとりまのれうまごひけるんそハ
ペテロをまゐる天のつひなり ^{十六}ペテロを門をたき
てやめざるうぶのれう門をひりきペテロはみそおら
け ^{十七}ペテロ手とくぶしうてうれうのあ急を志づぬい
主のおのきを獄よりひきりぐたまひ志ことのありさま
を告 ^{十八}まのこゝをヤコブおまひ兄弟 ^{十九}たちよ志せとい
ひ ^{二十}遂 ^{二十一}い ^{二十二}で ^{二十三}ほ ^{二十四}の ^{二十五}れ ^{二十六}こ ^{二十七}ろ ^{二十八}く ^{二十九}ゆ ^{三十}け ^{三十一}を ^{三十二}大 ^{三十三}夜 ^{三十四}あ ^{三十五}け ^{三十六}は ^{三十七}お ^{三十八}ら ^{三十九}び
ときペテロい ^{四十}こ ^{四十一}を ^{四十二}ち ^{四十三}り ^{四十四}し ^{四十五}や ^{四十六}し ^{四十七}兵 ^{四十八}卒 ^{四十九}の ^{五十}ち ^{五十一}ら ^{五十二}の ^{五十三}さ ^{五十四}わ ^{五十五}ぎ ^{五十六}ひ

かゝあしうさうき 十九へロデペテロ城ちぢぬれとも見つささ
ぶづひよまものものをたてきてうねくは死罪に命をうく
てへロデをユダヤよりカイザリヤよりうつりてこゝまねて○二十
へロデツロとシドンにものよむつひてをるりてうねく怒をい
だきうねくうねく心をあてせてそのもとよきうり内侍
の臣フラストよ志とみとみして平和をもとむそのかれく
れ國ハ王のうねくうねく糧食をうねくあり 三へロデそれ
さうあたる日よおつて王服にけそのうねくおま坐うね
らよむうひてかされき 三民あををあげつひうねくあを神
のこゝろあり人の聲よあうは 三へロデあまれば神は歸せき

るよより主の使者うねくちよかれをうねくうねくうねくハ蟲の
ためよこのまれて氣た也 三さて神のあまばいませくくひろ
まりバルナバあうひサウロをそれ務城とけをそりてマコと
るらるるヨハネ城ともあひてエルサレムもかくれき

第十三章

アンテヲケのけうらういよ數人のちげんーやと教師

ありまをもちバルナバあうひニゲルとよばるるシメヲンあうこ
クレネのルキヲあうひ分封王へロデの乳きやうたいマナエン
あうひサウロなりニうねく主よつうて断食あせうさき
聖靈のひけるはうねくためよバルナバとサウロをえうひつう
ちて我うねくよ命せーところの職をあこちうのあめよ 三こ

ころよおして断食^{ダンシキ}ののきをふり手と二人のころよあきて
これをやつしむ。如此^{カク}このふりハ聖靈^{セイレイ}よつのもをされて
セルキアよらざりかしこより舟出^{フナデ}してクプロよおもむけり
五^イころむらサラミスよはきユダヤびとの諸^{シヨ}らういなるよお
りて神^{カミ}のころむらと宣^{ノビ}まらヨハネを用^{ヨク}めてそのたまけとる
せき^シ六^{ロク}かくてころむら島のころむらとつてバボスよのころむらと
きのころむらの預言者^{ヨクヤ}バリエスとなららるトとなんユダヤ
くよあハセおのひらいらよの代官^{ダイカン}セルギヲパウロとつよ
智^チくともにもあり時^{トキ}よだいららんバルナバとサウロをまね
きて神^{カミ}のころむらとをまらんころむらとを求^{モト}ハ志^シころむらよこののころむら

い^イーやエルマスこの名をとらけバト者^{シヤク}ふりのもよさう
ひ代官^{ダイカン}として信^{シン}むらころむらとら^ラーめんとせり^カサウロま
この名^ナハパウロ聖靈^{セイレイ}よみとされ目^メをとめてころむらとを視^ミ十^{ジュ}い
ひららハ噫^イもぐてのころむらと奸惡^{ケンアク}よてみてるもの惡魔^{アクマ}
の子^コもぐての義^ギあとの敵^{テキ}よなんち主^{ヌシ}の直^{ナカ}なるみちをまけ
てやめざるころむら^ニみよ主^{ヌシ}の手^テいまあんちのころむらよありあん
ち瞽^クとあり志^シころむらとく目^メをみざるころむら^ニまらつちわれの目^メ
まみららみて己^{オノレ}をてびきせんものをもめさほよら^ニ
ころむらにおりてころむら^ニこのありころむらとをみて主^{ヌシ}のころ
ハ強^{ツヨク}おるきあらね信^{シン}ぜり^カ十三^{ジュウサン}パウロおよびそのころもあ

るゆのバポスより舟出きてパムフリアのペルゲにりりこ
こよてヨハネのつぎつよわうれてエルサレムよりこの
れつひよりより旅きてヒシテアのアンテヨケより安
息日よらるいだうよりりてさーぬ 十五 律法とよげんーやの
書をよみをももーのち會堂のつうさたち人をもてうれ
よいもせけるひひらぐきやうたのよもー民よもむる言
あくばのく 十六 バウロたちて手とらごうーのひけるハイス
ラエルの人々および神とらやまゆゆのよあんぢうまて
ー 十七 このイスラエルのたみの神の列祖をえつひ
その民のエジプトの地よやうりをりーときこれをとらて

うらほもき手をもつてうきとらこよりみちひきり
ー 十六 おろよそ 四十年のあひご野よてらとらきやー
ひ十九 まごカナンの地の七族の民をほろぶーその地を
らよ 嗣者め 二十 のちおよそ 四百五十年のあひごまも
よげんーやサムエルのときまて 二十 審士をあてたま
る 三 そのちうれ王をもめられ 四十 年のあひご
ベニアミンの支派キスの子サウロがあつ 三 後まごうれを
うらーダビデをたてうれりの王とてうらまをたてめ
よ 證してひいたまひらるわをエッサイの子ダビデとい
つるまごあつるようあ人をえつりうれまて 四十六

証しよい。神とやまよひとくパウロとバルナバと志す
くろパウロバルナバの如くよかたりて恒に神のめぐみよをら
んころ証さむ。つぎのあんそくよちよのたり邑のひと
びと神のこころをときんとて幾半をあらつせり。其の
おろくあらまれるをみてユダヤひと嫉妬をあらよみこ
せて争辯うつろ。あやパウロがりよところをあらめり。異
パウロとバルナバをもくろびていひけるハそれ神のおとを
ハあらけまらなんちよよつてつきあり然ともちんちろ
ハあれ証棄くろおのれハつきりなき生命証くべきことの
よあらけと自らさあたまをわきく轉ていさうとんよむ

ク少ぶ。主のこころにけりよ命とせり。いとくあん
ち救となんそ地の極よまでおよなんためよわれあんち証
たす。いとちんの光とあせり。異邦人ハあきをきよよ
ろこびて主のこころを証あむまぐてかぎりあるいのちよ
ささめられたるものハ信ぜり。其のよおい主の道あま
ねくこの地よひろまりぬ。其のうちにユダヤひと神とや
まよ貴婦たちおとび邑のおもむちたるひらぐのあろはる
ころさせてパウロとバルナバをくるめその境よりあひひき
せり。二人ハこのねよむくひ足の塵はうちちちひく
イコニラムよけり。其のころててちちあわいよ喜樂は

たちよなりてわれらよらざねし ころねるハルナバをゼウス
とよびパウロハめつたちと説話ころとまする人あるこの地急よ
ヘルメスとこれをよぶ 十三 ときよその邑前オチンタはあるところの
ゼウスの祭司うしと花うさりを門カドはめちきころりてあやぐ
の人とともにつけよくとささげうねくとまららんとせり
十四 使徒バルナバパウロころをきくくおのがあらをも裂ヒキき
いで大衆のなるよ入さけび 十五 つひけるまひらぐよある
申急よこのころとあやわれもまよかなんぢらととあふト
情ナラをもつとろろの人なり。たんぢらよ福音とほよふはな
んぢらとてこの虚妄ウソをまそ天と地と海あふびそのうち

のきべてのゆの強つるをたまへる活神キツクはこのゆるきめん
たゆあり 十六 ときよ一世よの神まへてのつとろよんよその
自己オノがみちとあゆむころとあふたすひしころと 十七 中よあ
んぢらとめらみて天よりあめをふしせあふこのある時候と
あふ糧食ケシとよろふひとあふあんぢらこのあふらとみよ
めかのきみらうと證せざりこころか 十八 この言コトをゆての
らうトておほくの人のおのきよは犠牲ケシとさげんとまする
をとめたり 十九 時はユダヤびととアンテオケイコニオムよ
りさうころとあふくのみととさめ石イシとあふパウロはうと
一の既スデころとにころとあふひ 邑マチれをよひまのさせり 二十 門

徒らちそのまはまよたぐるとき被おきてまらよつり次の
日バルナバとこもにデルベよゆげまニかゝるそのまは福
音をつとくおぼくのみとをでしとま。まゝルステライコニオム
アンテオケようく星三門徒たちのおくろせかゝるしそのつ
ぬよ信仰よをらんこをけりぬ。まゝおほくの艱難とへて
見れく神のらよ、のしるなまきあはれをしふ三このくそふ
たりのもの教會ぐくに長老をさるひ斷食といのりをあ
前より信トをさるるもの主よこれをやせぬぐり言うれく
あまねくヒシデアとへてパムフリアよいさま、五のいベルゲよ
道をつとへてアツタリアよとらぐり六のしこより舟をくアンテオケ

よつとる。こつねくさまん神の恩よゆげぬられ今とけ
しつとめをおこるまんとていでしとらなりモをせよの
たりて教會のひとをあつめおのれをたまけて神のるした
まぐるまぶてのしこといもうとんのこめよ信仰の門をひ
らきたまひしことをつとく六かゝてひさしし門徒らちとこ
もにこのしよとまのれし

第十五章

ユダヤよりとらぐり一人々きやうだのたちよをし
けらるし一なるへちるモーゼの例よ志こづひて割禮をうけ
はばまぐるまらるこを得トこれよしりてパウロとバルナバ
ほいよこれくあうまひこの論せしうべきやうないとも

そのころはつきてパウロバルナバおよびそのころの數人彼
エルサレムにのりて使徒と長老とあそびめんことをさ
づむ三 あつよおいてこれる教會のひとりぐよおくられい
ピニケおよびサマリヤを經ていそつ人の神は歸せしことを
つぎさよのくまぶての兄弟をおいよあつるをいめたり
四 これるエルサレムにのりてけうとまいと使徒および長老
つちよむつられおのれをたまけて神のなしたまひしを
盡てのぶとばつげしよ五 バリサイ宗のうちある信者まゝん
起てつひけるはこれるころあつ割禮をほつしころ命
トモモーセのおきてばつちのころむつし六 使徒とあつび

ちやうらうごちあのこと議んためよはつまれば七
あつよおあくの論あつしカペテロたちてくれらよつひけ
るはひらぐ兄弟よひさきさきよ神をれをらんぢうの中
よりえつび福音のころををころ口よりいそつ人よまき
せこれるばつてこれ信せしめらあひしころなんぢう
のあつところなりハつら人のころとありしころ神は
まづよ聖靈をあつしころこれるもあつてその證
をか九 まつ信仰をまけそのころをきよめわれしと
れこの間よころちをちさつりき十 志つるよ今まあつ
まづの列祖もこれるも負あつるをさる軛をしころの頸よ

つけて神をあらうむらや^{十一}うねらのまくもろくおぼくわ
れくも主の^{十二}しをキリストのめとらみようまてまくとくうらう
こうを信ぢるあり^{十三}爰おいてひらぐみ^{十四}を黙してバルナバと
パウロが神のおのれをもて異邦人のうちにおこるひとぬく
る休徴とふしぎあるわざと^{十五}法のあもなきけり^{十六}くれうの
しひをもちりのちヤコブあててしひらる人々きやう
ごいよわれよきけ^{十七}神を^{十八}とめていもうとんを眷顧そのう
ちよりおのが名^{十九}はあづむる民をとりたまひ^{二十}ころハシモン
まをよおれ^{二十一}法述^{二十二}よげんとやの言これとあくまその書よ
おのれち我かくまてまをよ^{二十三}うられうるダビデの帳幕とふ

た^一びおあ^二ーその破壊のあ^三と^四法あ^五て^六びつらうて^七つせ^八法
たら^九法^十ーあ^{十一}れその^{十二}け^{十三}りの民あ^{十四}も^{十五}びま^{十六}て^{十七}つ^{十八}が^{十九}名^{二十}法も
て^{二十一}あ^{二十二}く^{二十三}ら^{二十四}う^{二十五}い^{二十六}もう^{二十七}と^{二十八}ん^{二十九}よ^{三十}主^{三十一}を^{三十二}た^{三十三}ら^{三十四}ね^{三十五}さ^{三十六}せん^{三十七}ら^{三十八}め^{三十九}あり^{四十}此
ま^{四十一}て^{四十二}の^{四十三}う^{四十四}を^{四十五}お^{四十六}と^{四十七}あ^{四十八}み^{四十九}神^{五十}あ^{五十一}れ^{五十二}を^{五十三}つ^{五十四}お^{五十五}と^{五十六}志^{五十七}る^{五十八}さ^{五十九}れ^{六十}て^{六十一}の
う^{六十二}ー^{六十三}神^{六十四}ハ^{六十五}世^{六十六}の^{六十七}ち^{六十八}ら^{六十九}め^{七十}より^{七十一}その^{七十二}ま^{七十三}て^{七十四}の^{七十五}所^{七十六}行^{七十七}を^{七十八}あ^{七十九}ま^{八十}て
ま^{八十一}く^{八十二}を^{八十三}この^{八十四}ゆ^{八十五}ゑ^{八十六}よ^{八十七}ま^{八十八}れ^{八十九}お^{九十}も^{九十一}よ^{九十二}異^{九十三}邦^{九十四}人^{九十五}の^{九十六}う^{九十七}ち^{九十八}より^{九十九}神^{一百}は^{一百一}歸^{一百二}
は^{一百三}る^{一百四}もの^{一百五}を^{一百六}わ^{一百七}ら^{一百八}う^{一百九}ま^{二百}ん^{二百一}ハ^{二百二}よ^{二百三}う^{二百四}ー^{二百五}か^{二百六}ら^{二百七}じ^{二百八}と^{二百九}キ^{三百}ま^{三百一}く^{三百二}れ^{三百三}も^{三百四}書^{三百五}
法^{三百六}の^{三百七}ま^{三百八}う^{三百九}よ^{四百}あ^{四百一}く^{四百二}り^{四百三}て^{四百四}偶^{四百五}像^{四百六}は^{四百七}く^{四百八}つ^{四百九}さ^{五百}れ^{五百一}て^{五百二}る^{五百三}もの^{五百四}と^{五百五}姦^{五百六}淫^{五百七}と^{五百八}く
ひ^{五百九}ま^{六百}あ^{六百一}ら^{六百二}ー^{六百三}た^{六百四}る^{六百五}もの^{六百六}と^{六百七}血^{六百八}と^{六百九}法^{七百}い^{七百一}ま^{七百二}ー^{七百三}む^{七百四}ぶ^{七百五}ー^{七百六}ニ^{七百七}そ^{七百八}の^{七百九}い^{八百}ま^{八百一}う^{八百二}
へ^{八百三}ら^{八百四}り^{八百五}安^{八百六}息^{八百七}日^{八百八}あ^{八百九}く^{九百}ん^{九百一}會^{九百二}堂^{九百三}う^{九百四}て^{九百五}モ^{九百六}ー^{九百七}セ^{九百八}の^{九百九}書^{一千}を^{一千一}よ^{一千二}む^{一千三}ぶ^{一千四}が^{一千五}ゆ^{一千六}ゑ^{一千七}よ

それとのあるゆゑ各邑はあねばなり○三六
徒あしび長老とち全會とともいそめそのうちより人をえしび
あれ依パウロバルナバとともいアンテオケよはつてさんことを
定そのえらむれたる人いきやうづいのうちのおもきとめ
即ちバルサバとよなるユダあしびシラスなり 三
手よよせておらも書よいもく使徒ちやうらうおよび
きやうだいアンテオケスリヤキリキヤよなる異邦人のきやう
だいよ安をとよふ 二四
われらお命せざるゆゑわれらのうちを
いも言をぬきなんぢらとわらうちうなんぢらのあつた
をみごとくたると聞 二五二六
われよりてわれら心をおるトウー

人をえらむてわれらの愛ゆるバルナバパウロとともにつてを
さんとささむこの二人はわれらの主いほをキリストの名に
てめよその命をもしませりものなまをわれらユダと
シラスをつらばうれらの口よりあはこをのぐーめん
とす 元
そは聖靈とわれらと左の肝要なるものあつたあ
るやもなんぢらよおはせと定たり 元
さるもち偶像よさ
さげしものと血とらびりある一たるものと姦淫とをいま
しむべし。もあねらのこゝろをなんぢらとつらう慎まは善
ねつてもいなんぢらとをこやうなれ 三
アンテオケよいつても衆をあらめておの書をやせ 三
ひらぐ

あれをよみその勸をうけてよろらぐとユダとシラスも
まゝ預言者なれいおほくのあとをまて兄弟をまゝめり
れく派うせり三このてふりりのもの志ばくくしと
よとまり後きゆうごいたちよ安然を祝されそのおのれ
をばつちせり三のてふりりのもの志ばくくしと
まアンテオケよとまりその餘のおほくの人とやまよ
つをなす主のおほくのつたよ三五數日のおちパウロ
バルナバよひけるいわれうさきよ主のこゝまをのべと
ころの諸邑よまゝゆきを兄弟のありさぬといき訪べり三六
さうてバルナバもマコとならるるヨハネ派ともあそんとお

もくも然どもパウロをさきたんバムフリアよておのれより
まあれはくきれとめ共よゆのさうりこのマコをともなふ
はよのうととおひしよま三六遂よありのなりよはげ
しきあうそいおあを相りてバルナバもマコ派ともなひ
クプロよとせり三六パウロもシラスをえび兄弟よりお
のれを主のめぐみよ托られいで三六スリヤ及びキリキヤ
をなす諸くうを堅固せり

第十六章

かゝてパウロもテルベおよびルステラよいれまあ
よテモテとつる門徒あそその母ハユダヤれ信あそんる
みてその父をキリシヤ人なり三六うれハルステライコニオム三六の兄

弟^あらうほまれ^え得^えたり 三 バウロ^{バウロ}ちねをたづさうてやもたゆ
うん^{うん}ごとを欲^ほそのところあるユダヤ人^{ユダヤ人}のためうれよ
割^わ禮^{れい}をおま^まちう^{ちう}そ^そな人^{ひと}々々みなうれが^がちくのキリシヤ人^{キリシヤ人}る
る^る彼^かちね^{ちね}ばかり 四 かくて諸^{しよ}邑^いをま^まきエルサレム^{エルサレム}はあ^ある使^し徒^と
お^およ^よび長老^{ちやうらう}ちの定^{さだ}まる^まるいま^{いま}めをま^まめ^めせん^{せん}とて^{とて}こ^こを
を^をその人^{ひと}々々^{々々}ま^まら^らう 五 あれよと^とま^まめ^め諸^{しよ}教^{きやう}會^{かい}の^の人^{ひと}か^かう^うの
た^たく^くなり^{なり}を^をれ^れう^うは^はも^も日^ひ々^々ま^まり^りぬ 六 の^のれ^れる^るフル^{フル}キヤ^{キヤ}と^とカ^カラ^ラニヤ
れ^れ地^ちと^とま^まら^らう^うとき^{とき}ア^アジ^ジア^アは^は道^{みち}は^はく^くある^{ある}こ^こを^を聖^{せい}靈^{れい}と
と^とめ^められ^れ七^七つ^つひ^ひよ^よム^ムシ^シア^アは^はち^ちう^うつ^つき^きビ^ビテ^テニ^ニは^はゆ^ゆう^うん^んと^とせ^せ
か^か耶^い蘇^いの^の靈^{れい}と^とま^まら^らう^うめ^める^るさ^さも^もけ^けれ^れバ^バハ^ハう^うれ^れる^るム^ムシ^シア^アと^とへ^へ

トロアス^{トロアス}よ^よら^らざ^ざれ^れる 九 こ^この^のま^まめ^めバウロ^{バウロ}夜^よは^はお^おい^いそ^そひ^ひく^くその
マケドニヤ^{マケドニヤ}人^{ひと}たち^{たち}を^をお^おの^のれ^れよ^よあ^あひ^ひマケドニヤ^{マケドニヤ}は^はわ^わり^りて^てわ^われ
ら^らを^を助^{たす}け^ける^るを^をま^まら^らう^うよ^よ見^みたり 十 こ^この^のれ^れが^が異^い象^{しやう}よ^よあ^あれ
を^をみ^みの^のち^ちわ^われ^れる^るま^まら^らう^うよ^よ主^まめ^める^るを^をま^まめ^めマケドニヤ^{マケドニヤ}人^{ひと}
は^は福^{あゆ}音^んの^のあ^あら^らめ^めんと^とわ^われ^れる^るを^をめ^めた^たあ^あら^らう^うを^をお^おら^らを
この^{この}ま^まめ^め直^{ただ}ま^まマケドニヤ^{マケドニヤ}は^はゆ^ゆう^うん^んと^とは^はあ^あら^らう^うの^のま^まめ^めトロアス
と^とま^まめ^めあ^あら^らう^うを^をま^まら^らう^う真^ま直^ちま^まは^はせ^せて^てサモトラケ^{サモトラケ}は^はい^いり^りその^{その}次^あ日^ひ
ネアポリス^{ネアポリス}は^はあ^あら^らう^う 十三 か^かこ^この^のま^まめ^めピリツピ^{ピリツピ}は^はい^いり^りピリツピ^{ピリツピ}を
マケドニヤ^{マケドニヤ}の^の一^いの^のわ^わり^りの^のう^うち^ちあ^ある^る名^なあ^ある^る邑^{まち}と^とま^まめ^めする^{する}あ^あら^らう^う
ち^ち植^あ民^ん地^ちなる^{なる}ま^まら^らう^う數^{かず}日^ひあ^あの^のま^まら^らう^うと^とま^まめ^める^る 十三 安^{やす}息^{そく}日^ひ

にわれりまちをいづ河のちりある常いのみをたまふと
ころはゆき坐あてあつまれる婦女もちよころころと
布をあきかふテアテラれまちの商めて神をうやまふルデヤ
と名らるるをんを聞あそそ主そのあつちをひくきそパウロ
のころころあゆまあつちをあちおあめたまふ十五の婦その
家族とともよバプテスマをうけ求めてひひけるハなんぢらも
主を信ぜざるものわれをせばこそが家はきつるものとまれ
と強てそれらびつらあめたまふ共それら祈禱所はゆける
そころあひとゆる靈はよわれくるひりりのぢんなの奴隷わ
れらよ遇うれはうらなひよころころその主とちよおほくの

利をえさせしものあそパウロとわきうよあつてさ
げびひひらるあねひらるはいとたつき神のあつて
救道はわれらよひらるものなり大出の婢のくくることひ
さしりりたれをパウロとちをうれくころころみみて靈はひ
くるハわれ耶穌キリストの名よとりてなんぢよ命は出のを
んなよりいでよ靈たちところよ出ころよおひくそのあ
るトち利のれをみきそよされるをそてパウロとシラスと
わらわ市場はひきそ有司たちよいられそ十五をよ上官の
ちとにひきそたまそひひらるハ出のひらるユダヤ人よ
しそわれらの邑をみざろ三ロマンたるわきうの受るる

に^三行^なる^るう^うさ^さる^る少^すく^くの^の習^{じゆ}俗^{じゆ}を^をつ^つて^てあ^ある^るもの^{もの}あり^三 大^{たい}勢^{せい}
の^のもの^{もの}ひ^ひと^とく^くた^たち^ちて^てう^うれ^れを^を攻^せつ^つて^てい^いそ^その^の衣^えを^をき^き
命^{いのち}と^とあ^あれ^れを^をむ^むち^ちう^うて^てむ^む 三 お^おろ^ろく^く杖^{つゑ}て^ての^のち^ち獄^{ごく}よ^よれ^れこ
れ^れを^をか^かて^てま^まめ^めれ^れと^と獄^{ごく}吏^しよ^よめ^めの^のむ^む 四 ひ^ひと^とや^やも^もり^りこ^この^の
お^おと^とき^き命^{いのち}を^をう^うけ^けよ^よす^すり^り 彼^{かれ}等^らを^をお^おく^くは^はひ^ひと^とや^やよ^よれ^れて^て桎^{ちがひ}
を^をう^うけ^けて^ても^も 五 こ^こう^うて^て夜^よ半^{はん}ご^ごろ^ろパ^パウ^ウロ^ロと^とミ^ミラ^ラス^スの^のむ^むち^ちを^をあ^あ
ら^らつ^つ神^{かみ}を^を讚^{さん}美^びき^きめ^めう^うと^とら^ら 耳^{みみ}を^をか^かさ^さふ^ふけ^けて^てあ^あれ^れほ^ほき^きて^てお
ろ^ろく^くの^の 六 ひ^ひと^とう^うは^はお^おろ^ろい^いあ^ある^る地^ち震^{せん}あ^あま^まて^てひ^ひと^とや^やの^の基^{もと}ふ
る^るひ^ひう^うさ^さき^き門^{かど}こ^ころ^ろぐ^ぐた^たぐ^ぐち^ちよ^よひ^ひく^くけ^けを^をあ^あそ^その^の囚^{とりこ}人^{ひと}の^のな
は^はち^ちや^やけ^けたり^り 七 ひ^ひと^とや^やも^もり^り目^めを^をさ^さま^まし^し 獄^{ごく}門^{かど}の^のひ^ひく^くけ^けて^て

城^{しろ}を^をめ^めう^うと^と巴^はよ^よに^にげ^げて^てお^おろ^ろく^くの^の刀^{やいば}を^をぬ^ぬき^きて^て自^じ殺^{ころ}せん
と^とい^いふ^ふれ^れを^を 八 パ^パウ^ウロ^ロお^おほ^ほお^おろ^ろく^くよ^よう^うば^ばら^らし^しの^のひ^ひら^らを^をみ^みら^ら
う^うろ^ろ戕^{せき}あ^あり^りれ^れわ^わら^らら^らる^るあ^あら^らは^はあり^り 九 お^おの^のと^とき^き彼^{かれ}あ^あら^らし^し
城^{しろ}も^もあ^あり^りお^おろ^ろく^くの^の戦^{いくさ}慄^{おそ}く^くパ^パウ^ウロ^ロと^とミ^ミラ^ラス^スの^のま^まく^くよ^よひ^ひせ^せ
あ^あら^らし^しう^うれ^れを^を外^{そと}よ^よつ^つせ^せう^うて^ての^のひ^ひけ^ける^るハ^ハ君^{きみ}よ^よれ^れを^を
く^くあ^あれ^れん^んと^とあ^あら^らし^し何^{なに}を^をな^なす^すあ^あら^らし^し 三 う^うれ^れの^のひ^ひら^らを^を主^まい
に^にキ^キリ^リス^スト^トを^をあ^あん^んせ^せよ^よあ^あら^らし^しを^をな^なん^んち^ちお^おろ^ろく^くび^びな^なん^んち^ちの^の家^{いへ}
族^{ぞく}も^もあ^あら^らし^しう^うれ^れを^を 四 つ^つひ^ひよ^よれ^れお^おろ^ろく^くの^の家^{いへ}の^のま^まく^くよ^よの^の
自^まの^のよ^よ主^まの^のこ^ころ^ろを^をう^うて^てれ^れを^を 五 お^おの^の夜^よの^の即^{そのとき}時^{とき}う^うれ^れあ^あら^らし^し
を^をい^いさ^さあ^あら^らし^しの^の杖^{つゑ}傷^{きず}あ^あら^らし^しひ^ひて^てた^たぐ^ぐち^ちよ^よの^の家^{いへ}族^{ぞく}と^とも

にみなバプテスマをうけ 三 且つかれりとおのづからよつれき
くらも食物しよくものをその前まへにそろくまぐての家族かぞくとともて神を信
じてよろあむを 三 夜あけよつてまてつてさうち下吏かきざをつ
このはーいをもせたるはるる人々をゆるん 三 獄吏かきざ出のこ
とを紙パウロよつげてつひくもるを上官かみやんちく紙ゆるせ
とつひつのをせり。されを今いまつてやまううよゆけ 三 パウロ
うれうよつひくもるはまれう 三 ロマローマ人なるは罪をささめは
て公然おんやひはやまうとむちうち且つひとやよつれくをささめは
つまひをうよつとさんとまぐる。よろろーううはうれう自みづかま
たりてまきうとつきのをを 三 獄吏かきざ 出のこ言とつて

さうちよつげくれをうれうそのロローマ人あるときておそ
れ 三 來きたうれうよろよりのいでんくを求もとつひよつきの
たてまその邑まちをさかんくをねぐひたり 三 二人ふたりのも
のひとやをワテルデアのつよのを兄弟あなづことちよあひあれよ
勸すすをあてつてさりぬ

第十七章

このころうれうハ 三 アムピボリス 三 および 三 アポロニヤ 三 紙まき
テサロニケよいたる。あうよ 三 エダヤ 三 ひとの會堂くわいどうあり 三 パウロ常
のころうれうのちのよりの 三 三回さんかい あんそくよちごうよ 三 聖
書よもとづきてうれうと 三 論ろん 三 キリストのころあうはらう
みとらげ死よりよみづくるべきあうと 三 又また わがあんち

らよほくするところの所の耶穌もあつちキリストあるこ
とをときあつせり 四 こゝよおいてその中のひくく信じて
パウロとミラスよつけま。まゝ神をうやまふギリシヤ人のこれ
よつけるもおほく貴女もまゝくるころうざりき 五 未かるに
ユダヤびとあれを妒りちをよせる 匪類をこゝろひむきをあ
して邑をさわづせパウロとミラスをこゝろ民のまつよひき
つごさんとしてヤソンの家よきうりし 六 こゝろを見つご
さうまけむびヤソニおよび 數人のきやうたいを 邑宰のま
つよひきまゝりておほあふまよひひたるも天下をみごきこ
のゆのともあつよまをきごれま 七 ヤソニハあれをむうく

つれたま此ひくぐいみる耶穌とつふ他の王あまとのひて
カイザルの命よそむくものなり 八 大衆と邑のつごさづち
こゝろをきうて心とつごまむ 九 つごさハヤソニおよびその
餘のひくぐより 保状をとめてあれはゆるせま 十 きやうだ
いごち夜の間にいそぎパウロとミラスをベレアよきうりむ。
うれく彼處よいたまてユダヤびとの會堂よゆかり 十一 未の
ところの人々もテサロニケのものよりハ性情よきがゆゑよ
まのまて道をきうてつごのおときこゝと果してあまのあきり
をしらんとして日々よ聖書をさうまきり 十二 あれゆゑよそのう
ちの人おほくこれを信びまゝギリシヤの貴女および男子

の者んとたるものもまぐるみくろざりき^{十三} テサロニケのユダヤ
びとら神のあそむのパウロよりなきてベレアもほそそり
を著せしむ彼處よりなきてひとくばさわづめたり^{十四}
よおひて兄弟たちたづちよパウロと海よりゆくりむされとも
シラスとテモテハなほ去のころよりやまりぬ^{十五} パウロをと
もなむしもの彼をたづさうしてアテニスよりくる。そそ人々
パウロよりシラスとテモテ返速よきさうあめよそれ命をう
けていそたてりま^{十六} パウロアテニスよありてうれをまそそ
よきその邑あそきて偶像ははうをそそ甚あそそ返の
くめたを^{十七} 去のゆゑよ會堂よかいそユダヤ人および神と

うやまふひとくと論じま^{十八} 日々もちよおひてそのあふと
あろのそそ中そらんは^{十九} ときよエピクリアンおよびストイクの
理學者もらんあれとあひうられま。ある人のひくるをあれ
嚶^{二十} 喟ゆのちふといもんとほるものまそあそひとひうれを
あそむる鬼神をつたふるものおそそと。そんパウロうれ
よ耶穌およびちみかふるま^{二十一} らそそ返は屋が故あり^{二十二} ちか
てうれをひきつれアレオ山よゆきそひひくるはるんちが
かふるそそるれあのおそそき教をわれそあそせらそ
こそそ返得るや^{二十三} ちんぢの異聞をわれそのみくにのれが
あそよわそそそのちよおそなるをそそんとほそをたり^{二十四}

まづてそのアテニスびとおもひびその地はゆるまされる人いた
あつて一きあやみつけ或ちまきくおとたのみその日故おく
れを三パウロアレオ山のるくうまたちてのひらるハアテニスの
人よそれなんぢらが事ごとくに鬼神とくやまふのたまひよ
しきを觀三それみちをゆくときるんぢらが敬拜くらゐの
ものを三一はあうざる神よとほりつけ一の祭壇はとい
ぶせりゆ名はなんぢらがあうはしやくやまふおのもの故
それなんぢらよ示さん 三それ宇宙とそれうちのおゆる
ものをつくるまうくる神はあれ天地の主なれば手あてつ
られる殿よまみたまは 三三こうらまをそのものは生命と氣

息と萬物をあつくたまはくまものよとも一きくく人
手あてつくるらるものはあうは 三三の血脉よりい
でしをその民族あやみづく地の全面よまませあらうらめ
その時期ともむやまの界と故さうめたまはるも 三三
をして神をもくめ一めうれうがあうひまをくりうること
あらんごめなり。されとも神をわれうかのく故もある。ま
と遠ううざるなり 三三それうれうをうれよよりて生まう動
まう存ううをうるなり。なんぢらの詩人たちもそれうをそ
の子なりとのひしがあう 三元かくわさうハ神のまをるれ
ハそのかみと金銀まうら石ると人の工と巧をもてつく

るものといひとくおもふ處りらば 三 さうきよ蒙昧といふとき
も神あれをまきぐにあらまひりの今いのらこの人をも
みなといあうたむるまや命トてまふかり 三 その神もを
よそのたてしとあらの人よよを義をもて世をさばく處き
日哉さうあおのころよついでい彼をよみうらせそれ
證をまらくのひとにあうたまくになり 三 のれと死たる
ものよみうらそのあうばきうてある人のあざらるあ
ひとをわれこの言ばあうびなるちよきうんとつふ 三
あういしてパウロのつれの中よりつでさる 三 されと数人
のれよまき信ぜりそのうちよハアレオやまの裁判人テオメシオ

かよびダマリスと名うるをんるまそののろくの人もあれと
らまにありき

第十八章

あのはちパウロをアテニスをもまれてコリントよつくる

二 ちのころイタリヤよまきしまるものよてポイントよう知色

一 アクラとたづらるユダヤ人かうびその妻ヨリスキラよあ

ひてそのゆよいすれまのつれうのイタリヤよりきこつて

まクラウテラユダヤ人はあうぐくロマばされと命ぜりよを

まてかり 三 のれその業をおあどくまよよりてあれとこ

あうとぐぬて工銀なりぬそのげめを帳幕をつらるもの

なり 四 のうてパウロも安息日おとよとわんだうよあひて

論トユダヤ人とギリシヤびとを勸むり 五 シラスとテモテマケトニヤ
よりとゞりてるときパウロユダヤびとよむりひて耶穌のキリスト
なることをおくりし道をつとめるおとよあるをあらし
をれそ六 志くるにユダヤ人もあれよさくのらひうら誦しよ
よをパウロ衣とふるひてころれよのひくるハあんぢうの血
もなんぢうの首は歸まぐしわれハ咎なりいまより異邦人
ユゆうんセつひよあうとさうりてユストといくる人のつと
いるころけハ神をうやまふものうてその家ハとらういたう
おちろれそハとわいだうの宰クリスポおらびその家族みな主
張志んぞまうとコリントびとよて道をきき信トてバテスマ張

ろけしものもおほうりき 九 主ある夜まほろしよパウロ
うてまたよひくるハおそるハちうれ黙せまうてころる聲
しそハわれなんぢとともよあれバあんぢ張害せんとして
せむるものなりころあひの邑はわがおそくの民あり士あ
よおいとパウロ一年と六ヶ月のあひところのなりよとそ
て神の道張をくたりしカリヨアカヤの代官よりしとそ
ユダヤ人もあら張あをせてパウロをせめころれを裁判所よ
ひきさそそ十三のひくるハ志の徒ハおきてよそむきて神張
をがむころと人よまうむるものなり 十四 パウロ口張ひらら
んとせしときガリヨユダヤびとよのひくるハユダヤ人よ

もー不義奸惡のこゝとちうバわがなんぢらより聽きハあゝわ
まゝあり十五 志こゝろくれどもこゝろ言語あるひハ名字なづなあうびあんぢ
らのおきての論えちうバなんぢらさづけうあれは理ことべーわ
れうゝるあとの審士さしびとたるをまのまへ十六 のゝてうれははさ
いもん志こゝろよちうおひのぞせり十七 こゝろよおひてまゝ庵いへの
ギリミヤびと會堂くわいどうのつゝさあるソステネととて裁判さんぱん所のま
へよてむちうてま。ガリヨいさうはここのあゝは意いとせざりき
六パウロこのととろろよちうほひさゝととままり後のちキヤううと
こいとぬをつげてプリスキらおらびアクラとともに舟ふねよて
スリヤよわゝる。うれケンクレアよあゝもゝとき誓願ちかまようまて

髪かみをそれ十九 うれエペソよつゝりて二人ふたりをそらよととめお
きみづうう會堂くわいどうよつゝりてユダヤびとを論えせり二十 衆しゆうれがひ
さゝくともよとらんあゝは請ねがたれとうけがらべ二十一 三
と多おほはげせつゝひたるとわれこのまゝとらんとほむ節ふしを必かなら
エルサレムよおつて守まもらざるをえは。それととて神かみある一たま
まゝあゝとびあんぢらよ返かへる二とつゝひよ舟出ふねでしてエペソ
ととら三カイザリヤよつゝき。あゝとてエルサレムよのほむを教會くわいどうの
安否やすやすをゆゑひてのちアンテヲケよととぞり三 志こゝろばくここのとと
ろよ住すてまゝとてたちガラテヤあうびフルギヤの地ちをつぎく
一經きてまゝての門徒かどとちとととせり三 こゝろにアレキサンデリア

ようのれーユダヤびとよて辨才あまうの聖書は達したる
アポロとカウラム人エペソよきうれを二五あの人をやくよ
主の道のをしつ張うけ且らるを熱して耶穌のあつ張
つまびらこのよしふされたるヨハネのバプテスマをしれる
のよ天うれをしめてこの會堂よおひてもいうはかたり
たれバプリスキラとアクラあれをきうてうれを家の家よ
まねき神のみちをなほもけまびらうよときあうせりモ
アポロアカイアよゆんとせうバ兄弟ども書をかくして
てしたちよかれをうけつれんらうを勸うれのよしてまを
恩よよき信せしものとあわいよたれけらう三そをうれ

聖書はひきて耶穌のキリストなることとを定めーひとりぐの
まくうてユダヤびとを甚いひあせたれをあり

第十九章

アポロのコリントよをきるときパウロ東のうこの地

をきてエペソよきうてある門徒らうあひて二あれよい

ひらるはるんぢら信者とありーとき聖靈をうけーやあ

つたるをわきうて聖靈のあるあうてよきうざりき三パウロ

つひけるはさうバなんぢらバプテスマをうけて何よのきう

れーやあうけるをヨハネのバプテスマよのきうれ四

パウロのひけるをヨハネもまてしよ悔改のバプテスマをふー

民よあうてわれのせちよ來者まらち耶穌キリストを

あんなせよとの過り五 うれうれをきくバプテスマをうけて
主いよほの名よのれうきうり 六 パウロ手をそのうへよおき
たれを聖靈うれう一臨みよあともなるらみくの方言うてこの
たすうら預言せり七 その人おんよそ十二人なりきパウロ
會堂このまをうらうてして神の國のこらとをらんよのらと
すめて三ヶ月を過うり九 考うるよかこくかみしてあれを
信ぜざるひらぐありおほくの人のまくよその道をそしを
たれをパウロうれうをとなれ門徒うちをよもうれさせて
日々テラノスといく人の講堂よあいま論せよ十二年の
ひぶのくあまうつをユダヤびくもギリシヤ人もまきてアジア

よきゆるそのあとぐく主のあをばきぬ 十一 神んパウロの
手よよりてたぶなうぬあしきのわざを行たぬらま 十二 まる
そちパウロのかうだよあれう汗巾あるひに襤衣をとらて
やりるものよつけられバ病いさをも惡鬼をもつをとり 十三 ころ
よ諸所をめぐらてまよなひをなせるユダヤびとあり惡鬼
よつうれうるものよむうひ試よ主いよほの名をよびてい
ひけるもやれうパウロのふるところの耶穌よよりてな
んぢよいせんころとをちつたりむ 十四 ころくなせるものもユダヤ
人あるスケワといく祭司のそさの七人の子なり 十五 惡鬼こ
らしていひらるもやれ耶穌を考まきパウロばれをよさ

れどなんぢらハ誰^{なん}ぢや 夫^ま惡鬼^{あくき}よつられたる人^{ひと}うれうのう
つよととりあがりちれようちておしあせられバうれう傷^{きず}
つけられはざらうてその家^{いへ}をよげされま 此^このあやエペソ
よまあるまぐてのユダヤびとギリシヤ人^{びと}よきこえーのバの
れうみるおそれとつぎまぬ。ま^ま主^{しゅ}のこゝろの名^なあがめられ
たを^まま^まと信^{しん}ぜーものれうちおほくきうりて自^{みづか}らつひ
あうま^まその行^なあ^あととうつこ^こうり 九^くま^まさきま^ま魔術^{まじつ}を
おこる^まおほくのものともくその書籍^{しよじゆ}をあつめひとく
のま^まうてやけま^まその價^{あひ}をか^かて銀^{ぎん}五^ご万^{まん}やう^うとと志^し
れ^ま主^{しゅ}の道^{みち}ひ^ひま^まりて勝^{かち}と^とる^るこ^こう^うく^くの^のお^おと^と 三^{さん}お

のあやのま^まり^りのちパウロをマケドニヤおよびアカヤとま
ぎエルサレム^{エルサレム}よゆ^ゆんとあ^あろとさ^さめ^めつひ^ひる^るを我^{われ}か^か
あ^あよ^よゆ^ゆき^きの^のち^ちの^のな^なら^らび^びロ^ロマ^マ城^{じやう}も^も見^みる^る 三^{さん}ま^まる^るち^ちお^おの
れ^れは^はほ^ほう^うある^るもの^のく^くうち^ちテ^テモ^モテ^テと^とエ^エラ^ラスト^{スト}の^の二^{ふた}人^りを^をマ^マケ^ケド^ドニ^ニヤ
よ^よつ^つの^のま^まー^ーお^おの^のれ^れを^を志^しば^ばら^らく^くア^アジ^ジア^アよ^よと^とま^まり^りぬ 三^{さん}こ^この
と^とま^まその^の道^{みち}よ^よつ^ついて^てひ^ひと^とこ^こあ^あら^らぬ^ぬさ^さわ^わき^きあ^あれ^れを 四^よそ
ひ^ひと^とその^の銀^{ぎん}工^{こう}あり^り名^なは^はテ^テメ^メテ^テリ^リヲ^ヲと^とり^りふ^ふう^うれ^れアル^{アル}テ^テミス
の^の銀^{ぎん}龕^{がん}を^をつ^つり^りさ^さい^いく^くら^らは^は利^りを^をえ^えせ^せま^まぬ^ぬ 一^{いち}あ^あや^やま^まく^く
な^なら^らう^うさ^さら^らま^ま 二^に五^ごその^の工^{こう}人^{じん}あ^あら^らび^びお^おの^のづ^づた^たら^らひ^ひの^の業^{わざ}の^のま^ま
を^をあ^あつ^つめ^めて^てり^りひ^ひら^らる^るま^まひ^ひと^とぐ^ぐよ^よわ^われ^れく^くの^の富^{とみ}を^をお^おの^のなり

をひよよとさるあとなんぢうの知とあるなり 三六 おのパウロ
手よそつとれるものハ神よあはれやひておほくの人よ
まゝめまどそしたるはエペソをみならずほほくとアジア
中よあよほせを。あれまとなんぢうの見とある聞とあるな
アモあそたわねるの業のかるしめらるあやふみある
のみならずはアジアおよび天下あそをてあむるところの
おろいある女神アルテミスアルテミスの宮カヤもなみせられその威光ひかりもま
ごほろふ登一 元 うねるあれ成きてそはあそごそ怒さけ
びつひんるを大なるうなエペソびとのアルテミスよ 五 こと
よおろて舉邑ヨルダおほいよみされパウロの同行カヤなるマケドニヤ人

のカイラスとアリスタルコをそらくうねるあはれあをせて戯き
園えんよおしつれを 三三 パウロそそ人々ひとはなりよいらんとせ
よ門徒たちあれとゆるさるまき 三三 まごアジアの祭をつの
さるものうちようねとあごきものともありて人ひとは
このまよつのもうそのみつうう戯園きえんよいらさらんあをとも
とめたま 三三 その時あるひと彼かをいひあるひとを此
ことばひひさげは。そを會衆あひらみされて大半おほいのあを
よあつまれるをあござねはなり 三三 あごにおりてユダヤ
人アレキサンデルよいでんあをほりめられもあるひと群集ぐんしつ
のうちよりあれをおしつごぬ。アレキサンデル手てをうごの

民よむらひて事實をつかんとせー^三言うれそのユダヤ
人たるをあるがゆゑよみみおたどく聲をあげて大かゝる
なエペソひとのアルテミスよと二時^二のあひささけびあ
へ^三書記官ひとくをきつめてりひたるをエペソの人々よ
みのエペソの天よりおちりおほいあるアルテミスのみやよつ
うある邑なるをきくざるものあらんや^三この事をひひけ
きことあさるざれをなんぢらおぢやかましてみごりよ事
をなんぢらに^三そまこのひらくをみやの盜賊よもあ
はなんぢらの女神をくづれよのよもあはれ^三志うるになん
ぢらこれをひききたきり^三テメテリヨおぢびともにあると

ころのさいくまん^一人^二ぢらたあるあやあをささき
の目あり^一代官^二あれはたづひよあれようつたふ^三
そ^一他のあ^二つらよつ^三い^四くも^五も^六むるあやあを律法よか
なふあ^一ま^二ま^三よ^四お^五り^六て^七さ^八さ^九む^{一〇}る^{一一}一^{一二}わ^{一三}れ^{一四}く^{一五}今^{一六}日^{一七}の^{一八}さ^{一九}わ^{二〇}ぎ
よつ^一いて^二ハ^三訴^四ら^五き^六ん^七こ^八ろ^九お^{一〇}そ^{一一}る^{一二}。そ^{一三}も^{一四}こ^{一五}の^{一六}聚^{一七}集^{一八}よ^{一九}つ^{二〇}いて
ひ^一ひ^二く^三く^四づ^五き^六こ^七ろ^八を^九な^{一〇}ら^{一一}れ^{一二}バ^{一三}な^{一四}り^{一五}。如^{一六}此^{一七}か^{一八}こ^{一九}を^{二〇}て^{二一}あ^{二二}ら
ま^一り^二を^三ち^四ら^五せ^六ま^七

第二章

騷擾のやみー^一おちパウロを門徒らちをよびわれを

つげマケドニヤ^一よ^二ゆ^三ん^四と^五て^六り^七を^八た^九ち^{一〇}ぬ^{一一}。そ^{一二}れ^{一三}地^{一四}方^{一五}を^{一六}經^{一七}お^{一八}ほ
く^一の^二あ^三ら^四を^五ば^六も^七て^八ひ^九ら^{一〇}く^{一一}ば^{一二}ま^{一三}く^{一四}ぬ^{一五}キ^{一六}リ^{一七}シ^{一八}ヤ^{一九}よ^{二〇}つ^{二一}て^{二二}ま^{二三}あ^{二四}

は三ヶ月さんげつとまりて後スリヤスリヤはわたりんとせーときユダヤ人ひとのれを害わざはひせんともうりたれをマケドニヤ派マケドニヤ派をぎてかゝるんとあつろを定めさだめるもこれとももにアジアマてつるもーものはプロスの子ベレアベレアのソパテルあよびテサロニケびとのアリストタルコとセクンドテルベのカヨスとテモテまゝアジアはテキコとトロピモなり五このとももぐうはさきだちゆきてトロアスよかいて我儕われらをまてるもたぬれぬ餅もちのいさひのちちわれろピリピより舟出ふねでちて五日いつかめよトロアスよいさるもこれよあひてそのやゝろよ七日なぬかとどまねるも○七ひとまわし週のそめれ日ひわれろパンをさくそめよ集あつめるパウロつぎの

日ひいでたぐんあをとおもひこれよ道みちをころそころりつつけて夜半よなかよこれをもハこれろがあらまれる樓たのよあほくの燈あきあをユテコとなりろるひとりひとりのわたきぬの窓まどよとまて坐ましつとくねがをとりろパウロの道みちをころたれるもとひきりりたれをこれねありよよまて三階さんかいよりあつ。おれをたけけおとせーよまてよ死あまをパウロをさりてそれろよ伏ふちれをいさきていひくるハなんちろろれくさわをなつれこの人のいのちハうちよあを上のきてパウロまこの厚あつり餅もちをさきてろろひ久ひさくこれろところを夜よあけよおよびてのでたそり上ひろくちれ少年わかちをたらさくその活いざな

をみてちかりごなごさめを十三さそわきつ舟ふねよのそさきご
ちてアソスよわさりそのとらちよてパウロとのせんとせり。そ
はうれ陸くわよりゆいんとみづくくこのとひさごめしなり十四この
れアソスよおしてそねくよあひくれはうれをのせてミテレネ
よ十五かちこより舟ふね出してつぎのひキヨスの對むかひよと
てまたつぎの日サモスよつきトログリムよとまらも十六次日ミレトス
よつこれと十七そそパウロアジアよ時ときをつひやささるためよ
ふねよてエペソをまきんと意いごをさだめしげゆえなり。このくさ
さめしハ彼かれあるべくはペンテコステの日エルサレムよあるまらとを
えんといそきたるよよる十七まのくてこれハミレトスよるそエペソ

よ使つかいをほくのちしてさうとわいの長老ちやうじやうがち城しろよなごま十八これ
らがきこるそしときパウロあれよひくるもわがアジアよ來き
ア十九初日はつひよりつねよなんぢらのあつにありて行いくことと
なんぢらがあるところあり十九まをち我われをなごのことに
謙遜へんそんすさなみごどあがしユダヤ人じゆだやじんのちをたてよより艱難えんなん
よあひてまよつりつ二十益えきあるあやまのあはとあななくお
れとあべて或あるはひらぐのまゝあるひの家いえ々々よおひてなん
ぢらよを二十神かみよむうひてまら心こころあうたれま二十一イエス
キリストよむうひてを信まを仰うやうはなごころとユダヤ人じゆだやじんまら二十二キリシヤ
びくよ志しめせり二十三今いまもそれあらせまうてエルサレムよゆくとこの

—こゝまで遇あとらるゝいふんとあはれに三たゞ聖せい靈れいまぢおとよ
られよ志こころめししてつゝ縲な縛わと患あは難れわれとまてて四志こころられ
どもそれいふがゆゑに憂うれきみちと主まいよ五けりうけし職つとを
なまぢ福あ音んをあか—まぢおとよとげんうめよまぢ生いのち命めい
張はもおもんせざるぢまぢ今いまわれ知しなんぢらのうちを憂うれめ
るゝして神かみ國くにをつゝ憂うれ—わが面おもとこゝろのぢなんぢらあはし
びみざる憂うれ—六志こころのゆゑよわれ今日けふなんぢらよ證あかしをすべ
てのひとの血ちよあはてされいさぎよくしてあはしるぢ
となし—七それそれ神かみの旨めがとせらるゝところなくおとくとな
んぢらよの憂うれたればあり八ゆゑよなんぢらまぢ九慎しんら

つなんぢらよ聖せい靈れいよたてられて監かん督とくとなれるその全ぜん群ぐんと
つ—み主まのおの血ちをもり買かひたぬい—とらるの教きやう會かいと
や—ぢらみ憂うれ—十そはわがさうんのぢ志こころの群ぐんとを—まぢ
るあはしき狼おなんぢらの中なかよいらんぢぢを志こころれをなり十一亦また
なんぢらのぢのよよりも門か徒たたちとあはれよ志こころさぐせせん
とてよ—まある言ことといひいづれものおとらん十二志こころの故ゆゑ
よなんぢらとらるせよ。わが三年さんねんのあひごよろもひるもた
えは涙なみだをあか—してあはしとまぢめ—十三志こころの憶おぼ念えんを—十四兄あに弟てい
よなんぢらの徳とくとなて且かつまぢてのきうわらさしものよあ
のよあはし業わざをなんぢらよあはしあるぢらある神かみあはしび

その恩恵のあこむよ今それなんぢらとゆぶぬ 作建人の
金銀衣服をむさぶるもあやなり 三 ながの手にいられおよ
びそれともよあやしもの需用よそあつしあこむなん
ぢらがあつしるなり 三五 それなんぢらもかく勤勞てよわ
きものをたげけ。うらまひに返されつひたまふる受よりも與
えさいをひたり。どのあやををこらふよ記すべきをまぐての
事よおいてあめせるなるを 三六 ハウロウくかへて曲跪ま
ての事のとともよいのれを 三七 うれうまおほいよながき
ハウロの頸をいたきてあねと接吻しそのふくびわが面と
見まふといひあつしをよよまてわけても憂となしうれは

舟までともあつし

第二章

つぎ強くうれうまわられ舟よを真直よコスよい

たり次日ロドスよゆきかしまうまをパメラよいけり 二ニケ

よわらふねよ遇あねよのまをツロよつげをそのあのととも

は左よけぎスリヤよわらもツロよつげをそのあのととも

みけふねの積荷はあふさんとほねになり 三 このうてわれ

門徒たちとさひそこと七日としまれを。うれう靈よかんと

てパウロよエルサレムへゆくなりれとつふ 五 さねどまをよ七日

とまごしうれをわれうつをたちて途よつぐ。のあつしその妻

撃ところもにわれうとあつしをて邑外よまをいへるもしうかとも

一岸はひきまづきていのを六互はわつれとつげとはまを
のちわれは舟はのをうれまその家はるるれまてこれ
らツロよりトレマイはるるりまては舟路とよりぬうて兄
弟たちの安否とといひうれととも一日とまりハ次日
いでたちてカイザリヤより福音をつらるピリポの家
にいきてともはとまる。このピリポハ七人の一人なり九
れは預言する四人のむねあり。みま處女なり十わきく數
目はよとまれるときアガボスと名するひくその預言者
ユダヤよりくるもこれらもよきよりてパウロの帯と
やうかのれの手足と志を全ていひたりそのくのおくとく

エルサレムはあるユダヤ人もあのおびのぬと志をもて異邦人
の手よとさんと聖靈のいたまをよあのこととさして
それとあ地のものあともうれはエルサレムへの行るあ
うれとまゆめーはパウロあてけるハなんぢうなんぞ哭
てわがころを摧やそれ主いさはの名のうあまをたはよ
志ばるるのみなくはエルサレムは成るもまう甘むるところ
なりうれまめといれまをたればそれ主の旨のおと
くなれといひて止まきを一數日をもてわねる行装をた
エルサレムはあなれまカイザリヤのでたちも數人りまると
ともによまをわきくはクプロのナソンといはる老門徒のと

血とろびをあらせしものあつじば姦淫をばしむるに
さたぬより 六のくしてパウロも次日のひらくをたづさへて
あれどもにきうめおとをち且うれし各々のごめは供
物とさへをなまきふくし され期までよきめおとの日をも
たさんころを殿よのりてつぐ 七日をほんとほるうき
アリアよりきたるローマユダヤびとパウロのみやよをば見てを
驚その民とさりだしめかれをさらへ示さけびくるを
イスラエルの人々われとたひけよあは人もあまねく教を
つぐへの民と律法とあゝの處よさらうふものなりまうヤリシヤ
人をもひきて殿よつをあはまきふきとをけふたを 九

そをうれしうさきよエペソ人トロピエとつぐるものくパウロとこ
もに城下よあまねくをきてパウロあれとみやよひきめれ
とおもへるあり 十あゝにおいて擧邑さわきたち人々かけ
あつまりてパウロをさしとられを殿よりひきつごうれを
たづちよその門とちたを 十一うれしきでよパウロとあろさ
んとせしときあまねくエルサレムみだれたりとのおもさ千夫
のろをれ長よきてえくきば 十二うれたちよ兵卒と百夫の
のしらどもとひきあうれらのもとにもせとざれもうれし
千夫のしらと兵卒をみてパウロをうつことをやむ 十三その
とき千夫のしらとちのよりきてパウロをさらへ命じて二のく

さきまてあれ紙つなぐせ。そは誰たるまゝ何事をあせし
をたづねるも 三 おほくの衆中あるひとこのころをツヒ
或はあのかうをいひさげびみされよりて千夫のりら
その實情をあることあともいこのゆゑは命トせうれと陣
營はひきゆるしめり 三五三六 おほくの人のあともあつひ
うれをうろせとよびさげびかしせまるよりきて階はあよ
るるとき兵卒パウロをおく 三 パウロひうきて陣營はうら
んとせしときせんよんの長はひひたるをわれを人ぢまか
たまてよきやいなや彼あつたりある人ぢギリシヤのこと
ををあるや 三 なんぢのさきよ乱とおこし四千人の凶徒を

ひきめて野はいでーエジプト人あるぢや 三九 パウロのひたるは
われはキリキヤのタルソよりきれーユダヤびとよて鄙邑の
たみよあらは福がもくの民ようたるあはれわれよゆるせ
甲 せんよんの長あれをゆるしわれをパウロきぶるのし
またち民よむらひて手とくごりそのおほいよあつまれ
るときへブルのあつむをもてわれよかてれ

第十三章 ひとりぐ兄弟および父たちよ請りむわがのぢんとを

る事實をなんぢらきけ 二 うれらそのへブルのあつをよて
語るときいよくあづまれ 三 パウロのひたるはわれを
ユダヤ人よてキリキヤのタルソよ生あつしてあのかマリエル

の足下あしもとよてそごてられ先祖せんぞのおをそのある律法りつぽうようて
とくられ神かみは熱心ねつしんなるを今日こんにちのなんぢらとて
のこの如ごとくなりき四 われさきよは道のひくと男女おとこと
もあはれをうつ獄ごくよわごし死しよいつるまをよられをせめと
そ五 きまりち祭司さいしのをさと長老會ちやうしやうかいのひとのわれよついで
みなあらしとなれぐごとし。われうれとて兄弟あなたちよお
ろふみとけダマスコダマスコよとるものを志こころはりてエルサレムエルサレムよ
ひきたり刑けいとけさせんとてのよあよおむたり六 さ
れと我われあきてダマスコダマスコよちうづけるよ時ときおほのをひるごら
たちまち天あまよりおほいある光ひかりあきてわきとめたりてとせ

そ七 られ地ちよたある。そのときサウロサウロなるよゆゑわれ
とせむるやといふ聲こゑときく。われあそくするを主まよあん
ちハ誰たれぞやわれよのひたるハわれのなんぢらせむるとと
ろのナザレナザレの耶穌いすなり。われとらよあらしの光ひかりをみて
おそれるをされとわれようてそしもの。聲こゑときくごりき
+ されのひたるを主まよわれるよとなれきての主まわれよ
ひたぬひたるハおきてダマスコダマスコよ往かへりまをよさだせし。爾そのが
たはれきてを彼處あそこよおいてなんぢらつをべし。その光ひかり
のかやきよとてわれみるあをえんたりとれわれ
とてそにそしもの。手てよたけけられてダマスコダマスコよのうれ

21 此の邑はまゝあるまゝてのユダヤびとのなるはほまれあ
るアナニアといふ律法はまゝさうする神をうやまふ人なりわづ
らにまゝさうしたまはるは立てしむるも兄弟サウロあこ
たびみるあつとを得よ。それたちよ目をあげてうれを見た
まうれまゝさうわれらの列祖の神はなんぢは神のむね
をいらぬこの義者をみさせその口よりいづるまゝ急ぎ
かゝゆんことをさぶめたくもそはなんぢうれがさめ
よその見聞せよあつとめてまゝての人はむらひあうび
とあるをたれもあり今あんぢいふをためらるゝを
や。たちて主の名によびバプテスマをうけてその罪滅せよ

さるるをいとわれエルサレムはうらも聖殿はおいでのれ
るときまほろしめて見けるも主はむらひて急うれ
らになんぢがわれよついでたつる證をうけざるがゆゑよ
まみやうよエルサレムをいよよとつひくもわをいひけ
るは主よわれもなんぢ信じるものをとらへあるひは
諸會堂よてこれをむちうちうらとをわれらある又ある
ちのわうびとステパノはその血をながさるるときはそれ傍
たちてそのあつさるをよとてうれはあつさるの衣
はまのれよ主はうれよいひくるはゆけられなんぢ遠い
さうしんよつらにをいひてこの言よい

また、せうを

第廿三章

パウロ 議會よめを注うれらばみていひけるはひと
びと兄弟をわれ今日よりするまでまぐてのここと良しよよ
また神よつうくたを = 祭司のをさアナニアうごまうにたぐ
るこのは命とてこの口の口とうたむ三 あうよおひてパウロ
のれよいひらるにあらぬまう壁よ神にちんちをうた
んちんちの坐せるは律法よあごひてそれとさばうんた
めあるにおきてまたぐひ 命とてそればうごむこの四
たもうよ立るものともいひけるはちんち神のさい一の長
をびくしるやパウロいひけるは兄弟よわれその祭司のを

さなるをあらきあらば然とつをさるなりそんちん
ちの民の有司とそしるなれとも録されたる六 パウロの
れこのそぬ半をサドガイの人なるをハリサイのひとある
をありて議會のあらよよばるいひけるはひらぐ兄弟よ
まれそハリサイの人まごハリサイひとの子あり歿するこの
よみぐるあらと望よよまてそれ今たもさる七 パウロの
くいひーのハリサイの人とサドガイのひとのあひごよ争
論あまをてあつまりたるおほくの人人あひわられさりハ
そハサドガイひとハ復生まご天使および靈をなるといひ
ハリサイ人をあれをみるあまといくをなり九 遂よおほいあ

るさわぎとかりぬ。パリサイびとの學者たち立ちあがりて
いひける、「われらこの人のあしきことばみは、もろい靈ある
ひを天使のわれらにうつさるゝことあらん、」われら神は敵
に勝つゝざるなり、」このくち大なるあつそひおくりたれを
千夫のくしらパウロがかれらにひきさうき入あしを
おそれ、兵隊に命とわれらの中よりとせ、
われをうをひとせ
陣營にひきつゝしめたり、」主その夜パウロのかさむらよ
たちていひたまひ、「たるとパウロよ、勇そをなんぢわれに
ついてエルサレムに證せ、」ことこのあし口マもかくあ
らしむるをかり、」明日はおしびてエダヤびと黨をむ

まびともちりひてつひける、「パウロとあるは、
食飲ともままと、」主の誓をなせるもの、
四十人あまり、
われら祭司のどさおし、
長老たちのもとよきつりて、
いける、
「われらパウロをくらひ、
まてもあよ、
食とち
うひをたて、」このゆゑに、
請なんぢら、
議會とて、
パウロの事をあはんと、
したるぬるさまを、
なして、
千夫の
うしらは、
告われ、
なんぢらよ、
ひさく、
くしめよ、
われら
うづさる前よ、
あれと、
ころさんと、
われら、
あてよ、
備を、
あせ
て、
志するに、
パウロの、
姉妹の子、
あ、
のく、
を、
ま、
即ち
ゆきて、
陣營に、
い、
パウロよ、
つ、
パウロ、
請て、
ひ、
を、
人

の長ひくまをまねきいひくるハこの少者をせんよんの長
よつれゆけ。おのよのこれよつてまねきことあきなり。こ
こよおいそ百夫のうらわれをせんよんの長よつれゆきてい
ひけるハ囚者パウロわれをまねきておの少者かんちよ
ふなまよとあねハあれをなんちよつれゆうんおしとね
るハ九千夫のうらその手てひきひそふなることあるよ
まぞきてそひくるをなんちわれよつてんとほるあつハ何
ぞや手われいひくるハエダヤ人パウロのこつとをなほとい
く察考さつとをなしてなんちよまひ明日われを議會よつ
れらどさんおしと約せを三されとなんちわれくふことよ

あこがふなりれそをそのうち四十人あまりのものパウロ
とらるまをまよハらまなんまこのまどと共よちつひて埋伏
今まをよそのそあくをなしてなんちのゆうてまよを三
せんよんの長わらきものよなんちわれよまの事とつげ
と人よかするあつれとつひふくめてあねをさらしめ
た百夫のうらのおたをせめして兵卒二百人騎兵七十人
矛とゆらもの二百人をそあく今夜だ九時よカイザリヤへ
ゆけ。うら畜をそあくてパウロをのらしめあねをまより
て方伯ペリクスのものよおろるなつとつひ
まよさ左のこつと
き書をうきそくつり云クラウデナルシアス最たつとき方伯

ペリクスのやひきをとりよ三よの人ユダヤびとよさらわれ生
さよあろされんとせしとわれそのロマ人あるときし一よ
よをも兵隊をひきかゆきてわれをたひけ六われら訟る也
を叛あらんとおもひあをその議會よつれらざりし五
うれうつうくられし人たじわれらの律法の論ようれる
のみよてその死よあくるなくまこつかうべきのゆ名を
みぶるなり三あくるよユダヤ人われを害せんとならるよし。
そのことわれよあろわれしよよをたぢちよあれとなんちの
もとにかくれをもまこつれ訟し三ゆめどもよ命よその
訟るよつろ叛なるちよつげあめんとん三あくるちのて兵

卒ハ命よあこつひてパウロとたぢさ夜のうちよアンテパトリス
よいさ三あろるひ騎兵をしてパウロとともよゆらしめを
の餘のりのも陣營ようぬれ三騎兵もカイザリヤよつて
書をつつさよわさーパウロをそはまよたしむ三方伯ぬ
み城よみちをてうれよその國をとひキリキヤのまのあ
るをありて三五つひけるえなんち城うのたあもものれあ
よ來らんとときわれなんちよきくを遂よめいとてあれを
へロテの公靡よおつてまもろしめたを

第二十章 五日城をそのもち祭司のちさアナニアを長老がちあ
よびひしりの辯士テルトルスとともにくつててパウロと方伯

にうらたふパウロよびつごされーときテルトルスうら
への端をひろきてつひけるい三ゆつとも尊ペリクヌよわれ
らあんちよよまて大平をえ且この國をあんちの先見よよ
まて良よあうたまりうれを時よあこごひ地よあこごひて
感謝せざるな一四今われあくてあんちをさまことるここと
をせし請あまうく志のびてわがまこ一のあこごをきいた
ま一五まうわれうあの人をみるよ疫病のおと一。天下の
ユダヤびとをみぐるせまがらうれをナザレ宗めの一うらて
六まよ聖殿をもけつさんとせりわれらこれとくらへわが
律法よあこごひてさばきをるさんとあゆひ一よ千夫の

一うらルシアスきこりてわれうの手より強てあれをうをひ
とまへうれをうらうあるものをして命トてあんちのゆと
よきこくしめたり。なんぢうれをたぶさばわきうが訟ると
ころをあらぐくあうたまよ一ユダヤ人もともたうら
たくつひらるまあれうの事まことよ一かま十一つのは首を
もてあれ一パウロよいはしめ々れハこれあこくうらハあ
んぢがおほくの年あのため審官たるをわれあまこゆあ
よみづうらの事情をうらたあまこあこげよあこあ
ちあらんまも崇拝のためよエルサレムよのたまよ一よりま
うに十二日ののみ一十二うれうハわが聖殿よあいてひとあ

そひをな—まゝ會堂あるひの城下においそひとぐ我みご
せ—とぐ我いま—見ざるる—且うれしが今われをうら
たあるところのこころの憑據はたそ—これをうらうまると
とあ—と—これとまれは此事をなんぢはあつてもさん。そ
れわをそのれうが異端とそなふる道は志とつひを列祖
れ神はつ—と—あつぐと律法と預言者のふみは志とされ—
こ—と信—と—義者もた—のうさるも歎—そのよみ
う—らんま—と神はよりてわをハのぞめを。まあるちうれ
ら—望—と—とあつるな—ま—よよをそれ常—み
つ—と—み神はむ—人—はむ—つひて良心の責あ—らん

こ—と—は—と—むるなり—と—れ數年とる—りのち施濟をわ
らたみ—と—ま—と獻祭をせん—と—めはわか—たり—と—わ
ま—は潔淨てあれ—の—と—あるとき—アジアより—
—ユダヤび—と—の聖殿はおいてわ—人とあ—むる—と—を
せ—と—乱—と—も—と—み—と—も—と—を訴—と—あ
ら—と—うれ—と—なんぢのま—と—う—と—あ—
たわが議會はま—と—た—と—ときよはを—と—死—と—もの
よみ—と—く—と—の—と—よ—と—つきわれ今日—と—なんぢ—と—また—と—
つ—と—る—と—の—と—一言のほ—と—よ—と—この人々—と—も—と—不義あ—と—
見—と—バ—と—の—と—あ—と—三—と—あ—と—よ—と—お—と—つ—と—ベリクス—と—詳細—と—その道—と—あり

たれをうれしをまさしめんとして、
らルシアスのらざらん、そのときわきらはしとちんぢうのこ
とをちしめん、
百夫のうらよ命じてパウロを中より
めうらまを寛容して、その友のうれを供給こくあると
禁ぜざしむ、
數日のちちペリクス、その妻ユダヤ人を
テルシラととも、にきこりパウロをゆして、そのキリストを信
る道をうしろをきく、
パウロ公義と樽節とまさらんとは
る審判とをらんぜりうを、ペリクスおそれて、こくけいあ
んちまはしく、ちをそけし、れ便時をえをまさちんちをめさ
ん、
ペリクスパウロより、金をえん、あをのそむらぬる、

志はく、
ちボルキス、ペストスとつくる、
ペリクス悦をユダヤびとより、
はあぎあけを

第九章

さてペストス、
任國よりつりて三日のち、
カイザリヤ

よるエルサレムよの座より、
時よさひの長だちとユダヤ
のおもごちたるものども、
パウロをかちよ訴うらあせと途
るそをうりころさんとおひうれよ、
勸そは恩をわきこよ
賜てパウロをエルサレムよめ、
たまをらんあを請、
ペストスあこ
へてひひらるる、
パウロをまもられて、
カイザリヤよあり、
これ

とわうに被處よあもむくべー五 其のゆゑよなんぢらの
らち權威あるものどもわれをいかにいふにせうれよついで
訟をきこつとあつてバウロとひきついでさー七 パウロのきこれよ
日あまうりとも まるをカイザリヤよくを明日さるべきの座よ
まわを命としてパウロとひきついでさー七 パウロのきこれよ
ときエルサレムよりくささーユダヤ人らうれとたちこつて
證據をたつるあつとあつはざるおぼくの重罪をいせうらつと
へとあせをハ パウロのひむくまけるとわれのまごユダヤ
人のおきておらび聖殿まごカイザルよもみお犯せうとこら
ちー九 ペストスよらこらびをユダヤ人よとらんとしてパウロよ

こつてつひけるなんぢエルサレムよのわり被處よあ
てあつらつたつき審判をわがまごようらんこつて滅のをむ
や否+パウロのひむくまわれ今カイザルのさるべきのまよ
立このとつらよあつて審をうらつらハ當然なりわれのなん
ぢがあきこつらよ知るおつてユダヤびとに不義をなせよこ
となー十 もー不義はあとなひて死よあつてるべき罪はを
さるをこれハ死よまぬうらつらあつてはねがをよー我とら
たあつとつらのこととむかーきとらハそのはをよまうせ
てわれはのれよよ交付するものあつてわれハカイザルよ上告
せん十一 こつてよあつてペストス議事官とあひをつらとあつて

ゆいひたるをなんちカイザルは上告せんとなぐくをカイザルは
ゆいひたるを三 數日をも居てのちアグリッパ王もゆるひベルニケベストス
の安否をとほんためカイザリヤはまきつてを 命のこはこはとて
まねるこはとひさしうりうんペストスパウロのこはとて王は
つげてゆいひたるをこはとひさしその囚人あをまらあはちペリク
の遺押きしころなるを 命それエルサレムはころまらしき祭司の
とさしユダヤびとの長老だちこれをつらうて罪はささ
めんころをねぐくを 命それうきうは答らふころうく
れしとのおのれをつらうてしもの對しそのころたつ
ころを分理べき機をいまごえざるころまはあれ死しつ

ころハロマびとの例はあはれ 命こはとてはかつくわれこの
ころあはきたをあらまねを。われも日とのをたつことをせは
次日さばきの座はまわり命してその人とひきつてさしめ
ころよ 大訟者ともたちてこれをうつたくしつその事わら
あはれしめまらうきしころあはたか居り 命たはわれハ鬼
神をうやまふかの道とパウロが生とゆいひは死しひ
とりの耶穌とよついであはれをなしうれをつらうて
のこ 命我あれこのあらはまらひたれハパウロは對あは
ぢエルサレムはゆきこの事はつきてこはとてはかつて 命審判を
うらうあはれはねがふや否ととひしは 命これアウグストの質

訊をうけんとして護れんあとをよとめ—より我れ心
トてこれをカイザルよかふるまをまもるせおけそ 三 アグリッパ
ペストスよひひらるるもわれもまもるその人よまもる人あとのをの
ぞむなり。うきつひけるハ明日なんぢあれよ聽る— 三
よおつとある日アグリッパとベルニカおほひは威儀ををる
きつりて千夫の長だちおほひ邑のたあときひとくとこも
よ公堂よつりぬパウロもペストスの命よよりてひきつり
る 言 ペストスつひらるハアクリッパ王おほひををるわらうとこ
もにあたる人々よなんぢこの人よみるなるべ— 二 ダヤの
おほくのくエルサレムよかいても亦あのとこあるよおいて

もうれよついきわれよらうとくわれハこのおち生るるも
のよあつとよびさげべそ 五 されどつとこれと查看てを
の志ぬべきうとをせきり—を志れを照くれづうアウグスト
よ上告せんとももよよりわれこをとおくらんことを定た
そ 三 うきこれよついでわが主トよそらまふき實情をえん
ゆゑよそれあきを志くへて奏まべきことをえんがさめな
んぢらの前ま—殊更よアグリッパ王あるぢのまふよひきつり
せそ 三 そゆめ—うとをかくるよその罪案をうきそつらる
ハ理—うあつとあつとバなり

第六章

アグリッパパウロよつひけるもあんなぢらみづうのた

めよのぶるあをゆるしたるぞよおいてパウロ手とのく
られうぶらたなく城ふせうんとしていひたるハ
王よわがユダヤ人^{ユダヤ人}はうつしくらきしあともよつき今日^{今日}あんぢ
のまへうてあともぐくいひむくころをうるがゆ急よわれ
を幸^{さいはひ}なるものとせし殊^{こと}よふもいあるをあんぢユダヤび
との風氣^{ふうき}とわれらふ論^{ろん}はるころの端^{はなは}をころぐくあとも
あふころなりこのゆ急よねをましくハ耐^{しのび}心てわれよきした
まへ^四それまが始^{はじめ}よりエルサレム^{エルサレム}はありてわが民^{たみ}のなりよを
^五幼穉^{ようじゆう}ときよりいこうは世^よをまきしうをユダヤ人^{ユダヤ人}ハみるを
るなるべし^六し^七證^{あかし}をあさんとせばわれハ素^{もと}よりわが

さきよわれらの教^{きょう}のうちりてもらとも嚴^{げん}とらるよあともが
ひらるパリサイ人^{パリサイ人}なるもあとも城^{しろ}をまきし^六今^{いま}まれたちてわれ
らの列祖^{れつそ}よ神^{かみ}のやくそく^{やくそく}にたまひしその望^{のぞみ}よつきてさば
かる^七なり^七このれぞみハまあをちわれらの十二^{じふに}の支派^{しはい}
のゆるもゆるもひこまきし神^{かみ}よつかけて得^えんとはるものあ
まアグリッパ王^{アグリッパ王}よあ^{のぞみ}の望^{のぞみ}のころまよわあユダヤ人^{ユダヤ人}はうつ
つられ^八ハ神^{かみ}まてよ死^ししものをよみかつてせたりとい
あともなんぢもなんぢを信^{しん}どがしとほまや^九我^{われ}もまきし
きよそナザレ^{ナザレ}の耶穌^{いしす}の名^なよまかろさんか^十あおほくのここと
張^{はり}なれハよきあやとまづくおもひエルサレム^{エルサレム}よてこのあ

とをたせり即ちさるの長たちより權威をうけておるの
聖徒をひらやよのれまうれうのあろさうととき入そ
れをよしし諸會堂よりおいて志をくちを罰し志ひてお
れは熱漬をいしめうら狂るあとしをうらぶくおれよよ
して外國の邑よまをせめあよべそこのとき祭司のをさ
だちより權威と命令をうけてダマスコへゆきよ王よそ
の道よそひるのあらわれ天よりひるをある誠見たを日よ
そもかくやまそ我およびともにゆけるものをめとまて
らせそわれうみふ地よたあるそのときへブルのあろをよ
てサウロサウロなんぞわれをせむるやなんぢやげある鞭

をけるらとわさーとわれよりうける聲をそれきりま
れつひけるハ主よなんぢはうれぞやうれこそけること
れをなんぢがせむるところあの耶穌なりなんぢ起てたて
よそがなんぢはあうたうらハなんぢとたて役者としま
たなんぢがまて見しあしそがなんぢはあうたれて志
めさんそのあやの證人とあさんかうわふそわれなんぢ
をまもりてあの民あしびいもうとんの手よをまうか
今なんぢをうれうよつつをいハうれうの目をひくき暗
をもちあれて光よつきサタシの權をもちあれて神よ歸せぬ
まうこうれをうてわれを信むるにうそをけはみのゆるし

きよめられしものの中においそ業をうくることを得せし
めんふふめなり 九 このゆゑよアグリッパ王よそれらの天の
志をよそむうばし 十 先ダマスコエルサレムの人々つきよ
エダヤの全地およびいもうどんよまを恒よらぬあうらめ
よこのたうあこなうひをあして罪をくらむべきことと 神よ歸を
登きあやと成の登はくたを 二 あれらのあうらよよりて
エダヤ人われを聖殿よてとらく。うらわれをあらさんとせ
し 三 志のしそこれハ神のたまけをえ今日ようらるまをた
ふるふとなく小きものも大なるものも證をあせり。
四 びふとらるハ預言者あよびモーセが將來かあうばな

らんといひしあうらあうらうらハ 三 まありちキリストの
らる志みをうけ死しものよりみづくものもゆめとあり光
成このたみと異邦人よはくらるることなり 二 パウロがかう
つたくけるときペストス大聲よいひらるハパウロはなんぢハ
狂氣せを博學なんぢをしそきやうきせしめらる 二五 パウロ
いひけるも最たふときペストスよわれも狂氣せらよあうら
わがいふとらるも眞實よしてたしつあることらより 四
るなり 二六 そまあれらの事情を王よく志をたまくをそれら
むらうらむして王前にうられし。そまあれらのことハ方隅
あこなうらむらうらあうらざねバ王よかうらるることらあしと

信しんむねバなり。モ アグリッパ王おうよなんぢよげんとやのふみを信しん
むねのわれなんぢのしんじぶをしる。ニ アグリッパパウロよい
ひけるもなんぢをまもれを勸まもてたやまゝキリステアンとあき人
とに。ニ九 パウロひひけるを容易たやすきにもせよたやほうじさる
らもせよたやなんぢ。爾まづのみかろは今日こんにちわれよきこと
ころのこの皆みなあはたすめあとしてわがぶとまきものとな
らんあはた神かみよわがふあり。ニ一 かくまをくしるき王おうと
方伯つうさあはたびブルニケまことにも坐ませ。ひらぐたちてありぞ
き。ニ三 相あひこうしていひたるもあの人ひとも死しべきあやと縲きり縛ばよ
かふるをきこくはなさるあり。ニ三 アグリッパベストスよむひの

ひひひるもあの人ひとも。カイザルよ上かみ告つせんといをさうり
なすばもまやゆまはなまきものなり

第七章

われをよイタリヤへわらるらるよささまりたれ

たうれはパウロあはた他ほかのぬらうとらとアウグスト隊たいの

ひやくもんの長ながあるユウリアスとかうらるものよわらせ

ニ あらにおいさるれはアジアにそらしてあせんたまる

アドラミテオムの舟ふねよのそて出でマケドニヤのテサロニケびと

アリスタルコもねらとごもにありき。ニ 次日あすのひ。ニドニよつけ

ユウリアスねんらるよパウロは待まち遇いうれよ朋友ともだちのもくゆ

きうそのもてなすをうらるまをゆるせり。ニ ねらるま

このしこより舟出せし風かぜのさうあよよきてクプロの風下かぜ
のうたにはり五キリキヤとバムフリアの海うみをまぎてルキヤ
のムラとつくも湊みなとのつれを六あのところよて百夫ひやくぶのこ
しにイタリヤつわらるアレキサンデリアのふねよあひてるを
をまぎよのせつり七多日たひらのあひごふねのゆくこと遅おそやう
やくよしそクニドスよむつくるところよのそ風かぜの順おとあし
ぶるよよきてケルモネをまぎクレテのかざしものころを
しそ漸おそふしそその岸きよそひラサイアの邑むらまちのき美湊みみなとと
なづらるころあよのつれを九時ときをふまことまてよひさし
く斷食だんじきの期きもまぎぬれを舟路ふねぢのあやふまよらまハウロい

さめてしつひけるをひらくよまれあふよあふのふあぢハ
損害しんがいあわゆるなすたごよ積荷せきかと舟ふねのみなうぢちまのい
のちよもあよちん十一あつれども百夫ひやくぶのころらハパウロは
りふところよりも船長ふねぢぢと舟主ふねぢぢのころをを信まことト十二且かつ
あのみあとい冬ふゆ張はまごはよ便たよりよくうけこのゆあよこし
ピニクスよいつりかしこよて船ふねをまぎて得えんらとて
このところをいでんとさうめたるものおろし。ピニクスを
クレテのまなとよて西南せいなんのかぜとよしきこの風かぜとそのま
しよそひてふくところなり十三ときよ南風なんかぜあづつよあまけ
まばうねうあろざしをえつりとおしひ錨いかりをあげクレテ

よそうてまじしそーに 古ほぐふくユーロラルドンとこゝろある
狂風^{ちかぜ}あまよりおろしきつらき 舟^{ふね}をぬきさうひらきばあられ
敵^{あたい}こゝろ派^はえ派^はまれろその風^{かぜ}よまうせせ 六つひまクラウグ
といくる小島^{こじま}のうざいものかたしちせゆきやうやくよー
て小舟^{こふね}派^はをさむ 七 既^まよひきあげーのちうれろ備^{そなへ}おけるも
のをもち大舟^{おほふね}の胴^みとまばりうら洲^すよのりこつらんあやを
それ帆^ほをおろしてながれろり 大風^{おほかぜ}をげーきよちりてつぎ
のひ水夫^{みづこ}らつみにとなげまろ 九 第三日^{みつうか}よつろりてはわれ
ら手づろろ舟具^{ふねぐ}とあげまろ 十 ちりて多日^{たひ}のあひさ日^ひも星^{ほし}
もみえんしてちかきこせぬきあそくれろまれろつひよ

まじまじるべき望^{のぞみ}たえちてろり 二 人々^{ひとびと}ひさしく食^くせバパウロ
うれろのちろれたちてつひけるハ人々^{ひとびと}よあんぢろさきよ
わがつらめをきくクレテよりちあろこゝろをせばーそあ
の損害^{そんがむ}とらげばあるべきまぢなりー 三 今^{いま}まればあんぢろに
まじむ勇^{ゆう}なんぢろのうちひろりだよ生命^{いのち}とろーあふもの
なり。たろ舟^{ふね}とろーあふこゝろあらんのと 三 こそわが屬^{ぞく}まる
とろろわがはろあるとろろの神^{かみ}のつろひこの夜^よろつかそ
そろよたちて 四 パウロよおそろろなりれあんぢろあろに
カイガルのまろよたつぞろーろ神^{かみ}ハなんぢとらまよあね
よあるものをあそろくなんぢよ賜^{たま}とつろ 五 かのゆゑよ

諸人しよじんのつらめやうくまぬまうたりたまくるおしここのあらし
ならんとかき神かみを信じまかなを二六われうこうあらし一島わかしまは
おーあげられんモころきて第十四日だいじゅうよちうの夜よよりくるわき
アテリアのうみやたてようふ。夜半よなかある水夫みづこらきーまわつづけ
まとおもひて三水みづをはつらまー二二十尋にじゅうじゆんをこえつらまこーま
まみてまこころをー一十五尋じゅうごじゆんをえつら元石いしまのまこけん
あらしをおそれ艦かんより四よのいかまをおろして夜よおけをまぢ
わびぬ三水夫みづこらふねりののがまんとしそ舳しほよりいこまを
おろし二状態じたいあー小艇こていをうみやまさげられ三パウロパウロ百夫ひゃくぶのこ
しらと兵卒へいそつまのつひくらふまのひとくもー舟ふねまこまらし

をなんぢうまくとまうあらしを得えト三三ころよあつて兵卒へいそつら
小艇こていの索さくをたぢまをそのたつらまよりせつら三三夜の
あらしとけるときパウロまづてのひらぐま食たせんころは
まづめてつひくらふへなんぢうまぢわびて食たせつらーまを
今日けふいまをよ十四日じゅうよちうめちうを三三故ゆゑよそれなんぢらよまを
せんころはまをむ。その救たすけとらなきたけけとまらぐられを
あり。なんぢらの頭髮かみひとまぢどよなんぢらのうらべより
あちさるる三五如此かくころまをパンとらまをなその人ひとのま
つらて神かみよ謝あやまらあらしをさきまを食たけられ三六うれうま
まをいさうんで食たせり三七ぬねよのれるとらまのまわらあらし

せて二百七十六人なりき 三 まぎよあがくしてあきふれば
穀物とらふまきぬねをかろくせり 三九 夜あけてその地
ハシらざれどひとらの海灣をみたり 四一 洲さきあり 或
ハツシヨアトをえバ 四二 洲とまきぬ人と謀つかと
たちを錨をらみよまき 舵纜をゆるめ 船さきの帆とあけ 風
よまきよひまきまきをこしそしよ 四三 洲のなうれ
あふところよつりてふねと洲のりあげへまき居つ
きてうまうん 艦ハなみのはがしきうたぬまやぶられり
四四 洲よおいて 兵卒らめしとのおうきふふを人ことを
あそれまきを殺さんとまきむ 四五 洲れとも 百夫のししら

パウロをまきくもんとおもひそのまきゆととめ且およぎ
うらぬのちまづ水よまきつり 四六 そのほつ入あまひ板あ
るひもぬねのくざけよのまを岸よつらん 四七 命した
まのくのごともみまきくもく 四八 洲を得てまきよのほれ
す

第八章

これらまきよまきよをえそのちその島の名とマリタ
ととああることをまねき 四九 びまら尋常なうねたさうけと
のく雨ふりと寒とよより火をとたきそまねく衆人とまき
せり 五〇 パウロおほくの柴をあらめて火よらるはあつて
さよより 蝮しをまきつりてその手よつけき 五一 夷人らまき

のその手はかゝるたるをそてたづひよひなるふこの人
はまゝさしきひをあらせしものなるん。うれ海よりのおれ
たるもつゝも天理そのいくるあたとゆるさるなり 五
パウロまむしと火のなるにありおしと害とうらうらと
なり 六 うれうパウロ城うらひてその腫る。あまひいた
ちまち付てしぬるうとあらんとおまひしよひさしきうら
ぐしともうれは害のおよむるをそてそのおまひと轉あ
を神なりとつゝも七 去年の長をプブリヲと名つゝまのほ
とやうおのうもゆる田地あり。うれさしきとむ。登々ねん
あろよ三日やとせしき。さきよプブリヲの父ねらと痢

病減らづひてぬしとそしつパウロそのもよひしきいれ
るて手減そのうへは按これはいやせり九 このことあそし
うバ島はあるところの他のやめるものともさきうりていや
さるしきを得たり十 うれう禮をあらくきてわれうとうやま
ひまご舟出のときよのぞみそわれううなきてうあまねも
のどおききり 十一 わきう三ヶ月を登て後あの一ぬよて冬を
まごせしテヲスクリの號あるアレキサンテリアのぬねよのま
て 十二 スラクサよつき三日といまれ 十三 かしこよりまのそ
てレキヲよしきも一日を登て南風おありなれば次日プテヲリ
よいあり 十四 兄弟たちよあひうれう請よまうせして七日と

とまらる。あつて、ロマはゆく十五。ロマの兄弟十六たちわれこの
とをきく。アッピポロムあつて、三館十七といふところよきなり
て、われをむく。パウロあれをて、神は謝し、そのあつては
ちうとをえたり十八。まてよわれ、ロマはいつても、百夫の
うらめ、うらとと王をまもる。兵隊のうらめはわれを
それとパウロをひく。その守兵十九とともに別はみづうとを
こつとゆるされたり二十。三日とあつてのち、パウロ、ユダヤ人の
おもたてるものともとよびあつむ。われのあつたれと
きられ、いひたるは、ひらく。兄弟二十一、われいまごころの民二十二
列祖二十三の例はもつて、なほこつともなせ、こつた。あつる

よエルサレムより、囚人二十四となりて、ロマびとの手よつた。われた
る。ロマ人二十五、まてよわれとあつたれと死二十六づき、つみあきつ
ゆゑ、われをゆるさんとあつる。ユダヤ人二十七、あれはあつ
みよより、我やむこつとをえむ。カイサルは上告二十八を、あつ
れども、國二十九のたみをうらつた。ためよ、いあつた。これ
よ、われをわれなんぢよ、會三十ともにかつる。人こつとをこつる
なり、そのれ、イスラエルのをみの、われよ、この鍵三十一、つるが
るを、われより、われ、いひたるは、われ、ユダヤより、なんぢ
よ、つて、書信三十二を、うけ、まて、兄弟三十三、ちのき、つり、ものもあ
んぢよ、つて、何三十四のあ、き、あつ、あつ、われよ、報三十五、まて、こつ

モーセのなり三されどこれうなんぢのおもふところを聞
んとほそいわれしといづともあのおの宗旨のそしらるし我
志れはなり三既まはささめたる日ひはあうひておほくの人
パウロのやとにきさるれをパウロ朝あさちやくより暮くれよいつるま
でモーセの律法かきてとよげんとやの書あきをひき神國くみかたのあをを
きうらわれをありし若耶穌いそいのあををうらりてうれし我を
きめたり三そのあをばは感えんトてあれと然まとまするものあり
まは信しんせざるものもありて二五たぐひは相ああをざるによを
つひは志をそけそ其志きをそうんとせしときパウロい一言いをか
たまふるハ誠まことあるうを聖靈せいれいよげん志やイザヤいようをてわ

れらの列祖けんぞよかたし言ことそのあををよ云いなんぢああの民たみよ
ゆきそつげよ。あんぢういまきけともさくらほきとみは
ニモそのこのたみ目めよて見みまよて聽きあうああよそよさし
悔改あへんてまねよいやされんこととおそれその心こころをほふと
耳みみをおひ目めをとらと三六あのおあよあんぢうあう
一神かみのまらひの異邦人いほうじんよかくられうれしハこれをまのん
元もとパウロがああの言ことはひをうらりしときユダヤ人あありぞま
てたぐひよおほいある争論あやまひとあせり三のそてパウロその
うらうけし家いへよをうらりしとき全まく二年にねんまてまうらりあうん
とまらものをむつてまうらりし神國くみかたのあ主まいを

